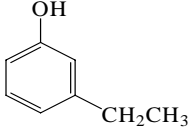
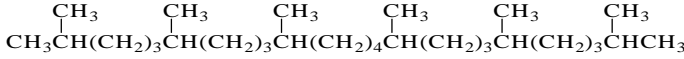
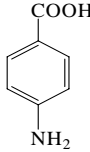
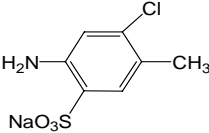
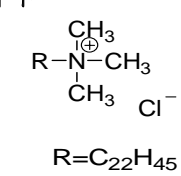
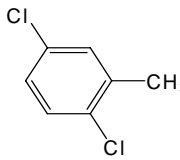
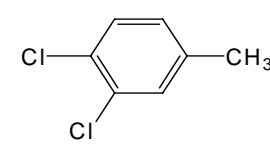
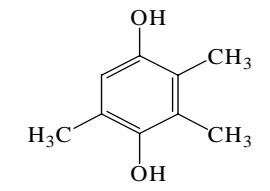
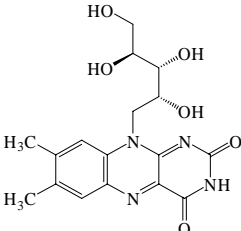
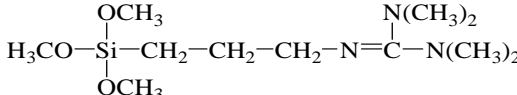
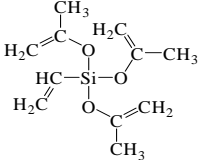

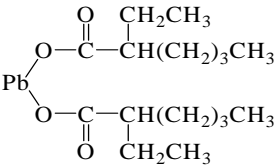
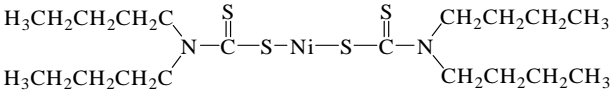
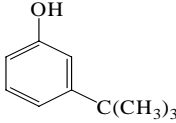
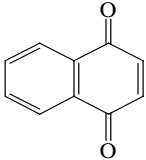
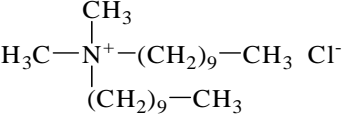


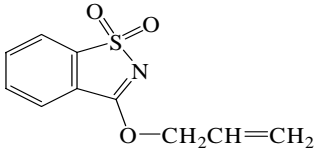
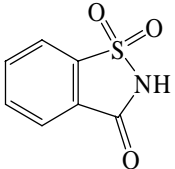
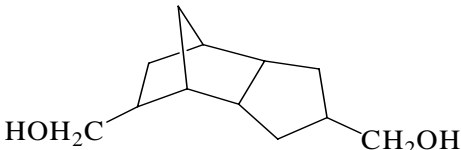
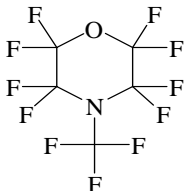
平成19年10月 既存化学物質点検（分解・蓄積）結果資料 〈第68回審査部会〉

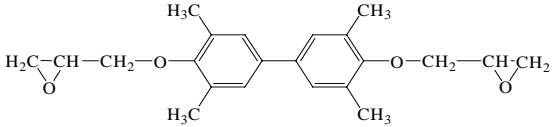
K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度 (%)	分配係数 (log Pow)	濃縮倍率	判定結果 ()内は既判定	後続の試験案 (試験の種類, 試験物質)	頁
1140B	<i>m</i> -エチルフェノール (620-17-7) 3-0500 4-0057 	BOD : 93, 92, 91 (92) TOC : 98, 98, 99 (98) HPLC: 100, 100, 100 (100)	-	-	良分解性	なし	1
1184C	アルカン酸 (C=4~30) (イソオクタデカン酸) (2724-58-5, 30399-84-9) 2-0608 (CH ₃) ₂ CH—(CH ₂) ₁₄ —COOH	BOD : 68, 66, 68 (68) HPLC: 93, 91, 95 (93) 変化物(トリデカンアルデヒド、ペンタデカンアルデヒド及びヘプタデカンアルデヒド)が微量検出された。HPLCクロマトグラム上の保持時間から、これらの変化物は被験物質より極性が高いと推定された。	-	-	良分解性	なし	3
1781	2, 6, 10, 15, 19, 23-ヘキサメチルテトラコサン (111-01-3) 9-0762 9-1317 	BOD : 34, 36, 37 (36) G C : 49, 48, 56 (51) 逆転条件 (参考データ) BOD : 68, 69, 56 (64) G C : 85, 94, 92 (90)	-	-	良分解性	なし	5
1786	<i>p</i> -アミノ安息香酸 (150-13-0) 3-1454 	BOD : 84, 84, 77 (82) TOC : 99, 99, 100 (100) HPLC: 100, 100, 100 (100)	-	-	良分解性	なし	7
143B	4-アミノ-2-クロロトルエン-5-スルホン酸ナトリウム (6627-59-4) 3-2024 	BOD : 0, 0, 2 (1) HPLC : -2, -1, -1 (0)*1	-2.24*2		難分解性	濃縮度試験	9

K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度 (%)	分配係数 (log Pow)	濃縮倍率	判定結果 ()内は既判定	後続の試験案 (試験の種類, 試験物質)	頁
663C	ドコシルトリメチルアンモニウムクロライド (17301-53-0) 2-0184  R=C ₂₂ H ₄₅	BOD : -5, -5, -6 (0)*1 HPLC : 1, 0, 3 (1)	-		難分解性	濃縮度試験	10
1201C	2, 5-ジクロロトルエン (19398-61-9) 3-0078 	BOD : 0, 0 (0) G C : -2, -5 (0) Closed bottle法	3.83*2		難分解性	濃縮度試験	12
1201D	3, 4-ジクロロトルエン (95-75-0) 3-0078 	BOD : 0, 0 (0) G C : -3, 1 (1) Closed bottle法	3.83*2		難分解性	濃縮度試験	14
1373B	1-ブロモペンタン (110-53-2) 2-0067 Br(CH ₂) ₄ CH ₃	BOD : 39, 36, 34 (36) G C : 51, 47, 47 (48) 被験物質の一部は加水分解し、生成した1-ペンタノールは分解した。	3.14*2		難分解性	分配係数試験	16
1775	2, 3, 5-トリメチルヒドロキノン (700-13-0) 3-0552 	BOD : -6, -6, -7 (0)*1 TOC : -4, -3, -5 (0)*1 HPLC: 100, 100, 100(100) 被験物質は全て消失し、大部分は被験物質の二量体 (2-(2,5-ジヒドロキシ-3,4,6-トリメチルフェニル)-3,5,6-トリメチル-1,4-ベンゾキノ、log Kow=4.33*2) に変化して残留し、微量不明変化物2種類を確認した。HPLCクロマトグラム上の保持時間から、これらの変化物は被験物質より極性が低いと推定された。	1.71 (pH3.1) (プラスコ振とう法) 2.67*2		難分解性	変化物 (2-(2,5-ジヒドロキシ-3,4,6-トリメチルフェニル)-3,5,6-トリメチル-1,4-ベンゾキノ) の標品の入手が困難であるため、変化物のHPLC法による分配係数試験*3から検討	18

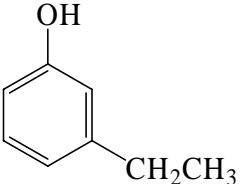
K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度 (%)	分配係数 (log Pow)	濃縮倍率	判定結果 ()内は既判定	後続の試験案 (試験の種類, 試験物質)	頁
1778	7, 8-ジメチル-10-(D-リボ-2, 3, 4, 5-テトラヒドロキシペンチル)-イソアロキサジン (83-88-5) 9-2282 	BOD : 19, 18, 20 (19) HPLC: 100, 100, 100(100) 被験物質は消失し、7,8-ジメチルアロキサジンを生成し残留した。	-1.05*2		難分解性	変化物 (7,8-ジメチルアロキサジン) による分配係数試験	20
1791	1, 1, 3, 3-テトラメチル-2-[3-(トリメトキシシリル)プロピル]グアニジン (69709-01-9) 2-3341 	BOD : 22, 22, 23 (22) TOC : 21, 22, 22 (22) 被験物質は試験液中で速やかに加水分解するため、被験物質分解度は算出不可。 被験物質は消失し、生成したメタノールは微生物により分解され、1, 1, 3, 3-テトラメチル-2-[3-(トリヒドロキシシリル)プロピル]グアニジン (log Kow=-1.94*2) が生成し、残留した。	-0.25*2		難分解性	変化物 (1, 1, 3, 3-テトラメチル-2-[3-(トリヒドロキシシリル)プロピル]グアニジン) による分配係数試験	21
1792	トリ (イソプロペニルオキシ) ビニルシラン (15332-99-7) 2-3197 	BOD : 71, 67, 67 (68) G C : 100, 100, 100(100) 被験物質は試験液中で速やかに加水分解するため、被験物質分解度は算出不可。 被験物質は消失し、生成したアセトンは微生物により分解され、トリヒドロキシビニルシラン (log Kow=-2.01*2) が生成し残留した。	4.8 (HPLC法) 2.39*2		難分解性	変化物 (トリヒドロキシビニルシラン) による分配係数試験	23
1798B	1-キシリル-1, 3-ジフェニルブタン (74921-47-4) 4-0071 	BOD : 0, 0, 0 (0) G C : 1, 1, 1 (1)	7.86*2		難分解性	濃縮度試験	26

K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度 (%)	分配係数 (log Pow)	濃縮倍率	判定結果 ()内は既判定	後続の試験案 (試験の種類, 試験物質)	頁
1807	2-エチルヘキサン酸鉛塩 (301-08-6) 2-0615 	BOD : 102, 101, 94 (99) 被験物質は試験液中で速やかに加水分解するため、被験物質分解度は算出不可。 被験物質の有機部分は微生物により分解されたが、形態不明の無機の不溶性鉛が残留した。	有機金属のため適用外		難分解性	不溶性鉛の構造推定	27
1808	ビス(ジブチルジチオカルバミン酸)ニッケル (13927-77-0) 2-1247 	BOD : 3, 4, 2 (3) HPLC: -2, -1, -4 (0)*1	有機金属のため適用外		難分解性	濃縮度試験	29
81B	3-tert-ブチルフェノール (585-34-2) 3-0503 	BOD : 0, 0, 0 (0) TOC : 0, 0, 0 (0) HPLC: 0, 0, 0 (0)	2.6 (HPLC法) 3.42*2	分配係数から類推	難分解性 高濃縮性ではない	なし	31
606	1,4-ナフトキノン (130-15-4) 4-0372 	BOD : -7, -6, -8 (0)*1 TOC : 49, 50, 48 (49) HPLC: 90, 93, 87 (90) (汚泥+被験物質)系において被験物質の大部分は変化したが、生成率1%以上の変化物は検出されなかった。定性分析の結果、被験物質の2~3量体程度の分子量の構造不明変化物が4種類及び分子量不明の高分子化した変化物が確認された。また、有機溶媒に不溶な変化物が認められ、より高分子化した変化物と推定された。	1.77 (フラスコ振とう法) 1.66*2	分配係数から類推	難分解性 高濃縮性ではない	なし	34
663B	ジデシルジメチルアンモニウムクロリド (7173-51-5) 2-0184 	BOD : -3, -2, -2 (0)*1 LC-MS: 0, -1, -1 (0)*1	-	定常状態における濃縮倍率 1区: 63倍 ばく露期間における濃縮倍率 1区: 54~180倍 2区: 47~95倍 脂質含有率 開始前: 3.75% 終了後: 5.79%	難分解性 高濃縮性ではない	なし	37

K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度 (%)	分配係数 (log Pow)	濃縮倍率	判定結果 (内は既判定)	後続の試験案 (試験の種類, 試験物質)	頁
1613	3-アリロキシ-1,2-ベンゾイソチアゾール-1,1-ジオキソド (27605-76-1) 5-3433 	審議済 (難分解性) (平成14年5月29日) BOD : 29, 24, 24 (26) TOC : 28, 28, 30 (29) HPLC: 100, 100, 100(100) 被験物質は変化して、1,2-ベンゾイソチアゾール-3(2H)-オン=1,1-ジオキソドを生成し、残留した。	2.86 ^{*2}	1,2-ベンゾイソチアゾール-3(2H)-オン=1,1-ジオキソドから類推	(難分解性) 高濃縮性ではない	なし	40
1613変	1,2-ベンゾイソチアゾール-3(2H)-オン=1,1-ジオキソド (81-07-2) 5-0198 	—	<0.3 (pH1.7) (HPLC法) 0.45 ^{*2}	分配係数から類推	高濃縮性ではない	なし	42
1705	ジメチロールトリシクロデカン (26896-48-0) 4-0641 	審議済 (難分解性) (平成16年6月18日) BOD : 2, 1, 1 (1) GC : 19, 22, 15 (19) (汚泥+被験物質)系において、被験物質は一部変化して、メチロールトリシクロデカンアルデヒド(2~7%生成, log Kow = 1.48 ^{*2})及びメチロールトリシクロデカン酸(12~15%生成, log Kow = 1.73 ^{*2})を生成し、残留した。また、被験物質の log Kow = 1.91 ^{*2} から、メチロールトリシクロデカンアルデヒドとメチロールトリシクロデカン酸は被験物質より極性が高いと推定される。	1.2~2.1 (加重平均値 = 1.8) (HPLC法) 2.32 ^{*2}	分配係数から類推	(難分解性) 高濃縮性ではない	なし	45
1738	ペルフルオロ-N-メチルモルホリン (382-28-5) 5-3790 	審議済 (難分解性) (平成18年7月21日) BOD : -4, -6 (0) ^{*1} GC : 2, -1 (0) Closed bottle法	> 3.93 ^{*4}	定常状態における濃縮倍率 1区:240倍 2区:200倍 脂質含有率 開始前 2.43% 終了後 4.55%	(難分解性) 高濃縮性ではない	なし	47

K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度 (%)	分配係数 (log Pow)	濃縮倍率	判定結果 (内は既判定)	後続の試験案 (試験の種類, 試験物質)	頁
1790	4, 4'-ビス(2, 3-エポキシプロポキシ)-3, 3', 5, 5'- テトラメチルビフェニル (85954-11-6) 4-1522 	BOD: -3, -3, -5 (0)*1 HPLC: 1, 2, 1 (2) 被験物質の一部が変化し(エポキシ 環の開環)、変化物が2種類生成 し、約1%残留した。HPLCクロマトグ ラム上の保持時間から、これらの変 化物は被験物質より極性が高いと推 定される。	4.0 (HPLC法) 5.19*2	ばく露期間における濃縮倍率 1区: 2.6倍以下 2区: 27倍以下 脂質含有率 開始前: 3.45% 終了後: 2.02%	難分解性 高濃縮性で はない	なし	50

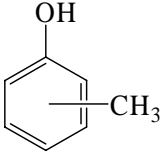
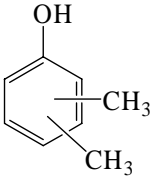
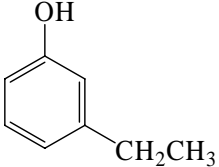
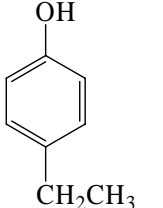
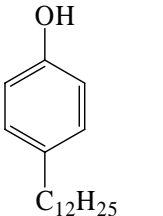
- *1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。
- *2 Kowwin v1.67 SRC-LOGKOW for Microsoft Windowsによる計算値
- *3 分解度試験終了後の試験液を試験サンプルとして使用する。
- *4 フラスコ振とう法による予備値

整理番号 K-1140B	分解度試験		分解度試験		分解度試験	
(NEDO 360, 3-0500, 4-0057)	事業対象年度 平成18年度		契約 年 月 日		契約 年 月 日	
m-エチルフェノール (620-17-7)	試験期間 18.10. 3~19. 2. 2		試験期間 . . ~ . .		試験期間 . . ~ . .	
	試験装置 (標) ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮	
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₈ H ₁₀ O 分子量 122.16	試験濃度		試験濃度		試験濃度	
	被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
	汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
	本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
	試験結果	間接	BOD 93, 92, 91 (92)%	試験結果	間接	
		直接	TOC 98, 98, 99 (98)% HPLC 100, 100, 100(100)%		試験結果	直接
純度*1 96.2% (GC)	外観 無色透明液体					
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 3.8%は不明	溶解度 (対水, その他) 対水 8.16 g/L (25°C) 対メタノール 10 g/L 以上		審査部会 第 68 回 19年10月26日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催	
融点*2 -4°C			判定		判定	
沸点*2 218.4°C	1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 2.40*2		備考 1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。		備考	
比重*1 d ₂₀ ²⁰ 1.0139						
LD50	安定性		2. 実施機関 ・ 財団法人 化学物質評価研究機構			
IRチャートの有無 (有) ・ 無						
用途*3 中間物、接着剤、有機化学品用(その他)、希釈剤、添加剤(その他)						
生産量*3 (16年) 製造及び輸入 100~1,000 t 未満						
試料 購入先 東京化成工業						
経済産業公報発表年月日	年 月 日					

*1 東京化成工業添付資料による。 *2 The Physical Properties Database(Syracuse Research Corporation)による。

*3 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

K-1140Bの類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
クレゾール (1319-77-3)		3-0499 (K-112)	標準(2W) 1975年実施 BOD 51, 49 (50) TOC 70, 68 (69) G C 70, 72 (71)	良分解性 (1975)	/	/	/	/
キシレノール (1300-71-6)		3-0521 (K-145)	標準(2W) 1976年実施 BOD 44, 44 (44) TOC 50, 47 (49) G C 62, 60 (61)	良分解性 (1976)	/	/	/	/
m-エチルフェノール (620-17-7)		3-0500 4-0057 (K-1140B)	標準(4W) 2006年実施 BOD 93, 92, 91 (92) TOC 98, 98, 99 (98) HPLC 100, 100, 100 (100)					
p-エチルフェノール (123-07-9)		3-0500 (K-1140)	標準(2W) 1994年実施 BOD 90, 89, 90 (90) TOC 100, 98, 99 (99) HPLC 100, 100, 100 (100)	良分解性 (1994)	/	/	/	/
4-ドデシルフェノール異性体混合物 (27193-86-8)		3-0511 (K-1666)	標準(4W) 2002年実施 BOD -5, -5, -4 (0)*1 HPLC 11, 10, 8 (10)	難分解性 (2002)	7.46*2	0.198 (96hr)	2004年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(1 µg/L) : 690 2区(0.1 µg/L) : 550 脂質含有率 開始前 2.95% 終了後 5.13%	高濃縮性 ではない (2004)

*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

*2 Kowwin v 1.67による計算値。

整理番号 K-1184C (NEDO 350, 2-0608)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
アルカン酸 (C=4~30) (イソオクタデカン酸)	事業対象年度 平成18年度	契約 年 月 日	契約 年 月 日
(2724-58-5, 30399-84-9)	試験期間 18.10.25~18.12.20	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標) ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状 $(\text{CH}_3)_2\text{CH}-(\text{CH}_2)_{14}-\text{COOH}$ 分子式 $\text{C}_{18}\text{H}_{36}\text{O}_2$ 分子量 284.48	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD 68, 66, 68 (68)% 直接 HPLC 93, 91, 95 (93)%	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接
純度*1 88.87%	外観 微黄色透明液体		
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 11.13%は不明	溶解度 (対水, その他) 対水 10 mg/L 以下 (25°C)	審査部会 第 68 回 19年10月26日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点*2 7°C		判定	判定
沸点*2 190°C	1-オクタノール/水分配係数 $\log Kow = 7.87^{*3}$	備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 104% (汚泥+被験物質)系 96% 2. 実施機関 ・株式会社 JCL バイオアッセイ 3. 特記事項 ・LC-MSにより被験物質は異性体混合物であった。ピーク5本の合計で定量を行った。	4. 参考 ・HPLCクロマトグラム上の保持時間から、これらの変化物は被験物質より極性が高いと推定された。
密度*2 0.89 g/cm ³ (25°C)			
LD50*2 >2,000mg/kg(oral, rat)	安定性		
IRチャートの有無 (有) ・ 無			
用途*4 写真・複写機用添加剤			
生産量*4 (16年) 製造及び輸入 1,000~10,000 t 未満			
試料 購入先			
経済産業公報発表年月日	年 月 日		

*1 HPLC法による。 *2 International Uniform Chemical Information Database(European Chemicals Bureau)(Edition 2000)による。

*3 Kowwin v 1.67による計算値。 *4 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

K - 1 1 8 4 C の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ギ酸 (64-18-6)	$\text{HC}-\text{OH}$ O	2-0670 (K-1099)	標準(2W) 1993年実施 BOD 108, 113, 110(110) TOC 100, 100, 100(100) HPLC 100, 100, 100(100)	良分解性 (1993)				
酢酸 (64-19-7)	$\text{CH}_3\text{C}-\text{OH}$ O	2-0688 (K-1101)	標準(2W) 1993年実施 BOD 71, 75, 76 (74) TOC 100, 100, 100(100) HPLC 100, 100, 100(100)	良分解性 (1993)				
2 - エチル酪酸 (88-09-5)	$\begin{array}{c} \text{CH}_2\text{CH}_3 \\ \\ \text{CH}_3\text{CH}_2\text{CH}-\text{OH} \\ \\ \text{O} \end{array}$	2-0608 (K-1184B)	標準(2W) 2000年実施 BOD 93, 97, 88 (93) TOC 96, 96, 96 (96) HPLC 100, 100, 100(100)	良分解性 (2000)				
イソオクタデカン酸 (2724-58-5)	$(\text{CH}_3)_2\text{CH}-\text{(CH}_2\text{)}_{14}-\text{C}-\text{OH}$ O	2-0608 (K-1184C)	標準(4W) 2006年実施 BOD 68, 66, 68 (68) HPLC 93, 91, 95 (93)					
ドコサン酸 (112-85-6)	$\text{CH}_3(\text{CH}_2)_{20}\text{C}-\text{OH}$ O	2-0608 (K-1184)	標準(4W) 1997年実施 BOD 48, 56, 52 (52) G C 67, 80, 73 (73) 逆転(4W) (参考データ) G C 95, 94, 95 (95)	良分解性 (1997)				
22 - トリコセン酸 (65119-95-1)	$\text{CH}_2=\text{CH}(\text{CH}_2)_{20}\text{C}-\text{OH}$ O	2-0609 (K-1094)	標準(4W) 1994年実施 BOD 96, 91, 91 (93) G C 100, 100, 100(100)	良分解性 (1994)				

整理番号 K-1781	分解度試験		分解度試験		分解度試験																																							
(NEDO 349, 9-0762, 9-1317)	事業対象年度 平成18年度		契約 年 月 日		契約 年 月 日																																							
2, 6, 10, 15, 19, 23-ヘキサメチルテトラコサン	試験期間 18.12.11~19.1.29		試験期間 . . ~ . .		試験期間 . . ~ . .																																							
(111-01-3)	試験装置 (標)・揮		試験装置 標・揮		試験装置 標・揮																																							
構造式(示性式)・物理化学的性状 $\text{CH}_3\text{CH}(\text{CH}_3)(\text{CH}_2)_3\text{CH}(\text{CH}_3)(\text{CH}_2)_3\text{CH}(\text{CH}_3)(\text{CH}_2)_4\text{CH}(\text{CH}_3)(\text{CH}_2)_3\text{CH}(\text{CH}_3)(\text{CH}_2)_3\text{CHCH}_3$ 分子式 C ₃₀ H ₆₂ 分子量 422.81	試験濃度		試験濃度		試験濃度																																							
	被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L																																							
	汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L																																							
	本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間																																							
	試験結果	間接	BOD 34, 36, 37 (36)%	試験結果	間接		試験結果	間接																																				
直接		G C 49, 48, 56 (51)%	直接			直接																																						
純度*1 99.3%	外観 無色透明液体		審査部会 第68回 19年10月26日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催																																							
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り0.7%は不明	溶解度(対水, その他) 対水 100 mg/L 以下(25℃)		判定		判定																																							
融点*2 -38℃	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = 14.63*3		備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 101% (汚泥+被験物質)系 104% 2. 実施機関 ・広栄テクノ株式会社 3. 特記事項 ・(汚泥+被験物質)系のGCクロマトグラム上に変化物ピークは認められなかった。 ・28日後のDOC検出結果 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: top;"> <thead> <tr> <th></th> <th>(水+被験物質)系</th> <th colspan="3">(汚泥+被験物質)系</th> <th>理論量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>量(mgC)</td> <td>2.6</td> <td>0.5</td> <td>3.8</td> <td>1.8</td> <td>25.6</td> </tr> <tr> <td>率(%)</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>7</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> ・逆転条件予備試験結果(4週間) <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: top;"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="4">分解度(%)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BOD</td> <td>68</td> <td>69</td> <td>56</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>G C</td> <td>85</td> <td>94</td> <td>92</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table> (培養期間 18.12.13~19.1.10) (汚泥+被験物質)系でDOCは検出されなかった。					(水+被験物質)系	(汚泥+被験物質)系			理論量	量(mgC)	2.6	0.5	3.8	1.8	25.6	率(%)	10	2	15	7	-		分解度(%)					1	2	3	平均	BOD	68	69	56	64	G C	85	94	92	90
	(水+被験物質)系	(汚泥+被験物質)系					理論量																																					
量(mgC)	2.6	0.5					3.8	1.8	25.6																																			
率(%)	10	2					15	7	-																																			
	分解度(%)																																											
	1	2	3	平均																																								
BOD	68	69	56	64																																								
G C	85	94	92	90																																								
沸点*2 350℃(760mmHg)	安定性		用途*4 有機化学品用、医薬品等		生産量*4 (16年) 製造及び輸入 100~1,000 t 未満																																							
比重*1 d ₂₀ ²⁰ 0.8094	用途*4 有機化学品用、医薬品等		試験料 購入先 東京化成工業		経済産業公報発表年月日 年 月 日																																							
LD50	用途*4 有機化学品用、医薬品等		試験料 購入先 東京化成工業		経済産業公報発表年月日 年 月 日																																							
IRチャートの有無 (有)・無	用途*4 有機化学品用、医薬品等		試験料 購入先 東京化成工業		経済産業公報発表年月日 年 月 日																																							

*1 東京化成工業添付資料による。

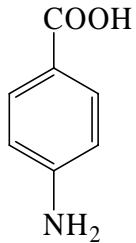
*2 The Merck Index(13th edition)による。

*3 Kowwin v 1.67 による計算値。

*4 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

K - 1 7 8 1 の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K- 番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
<i>n</i> -ウンデカン (1120-21-4)	$\text{CH}_3(\text{CH}_2)_9\text{CH}_3$	2-0010 (K-1224)	標準(4W) 1995年実施 BOD 116, 120, 118(118) G C 100, 100, 100(100)	良分解性 (1995)	/	/	/	/
<i>n</i> -ペンタデカン (629-62-9)	$\text{CH}_3(\text{CH}_2)_{13}\text{CH}_3$	2-0010 (K-281)	標準(2W) 1976年実施 BOD 58, 52 (55) G C 94, 95 (95)	良分解性 (1976)	/	/	/	/
2, 2, 4, 4, 6, 8, 8 - ヘプタメチルノナン (4390-04-9)	$\begin{array}{cccc} \text{CH}_3 & \text{CH}_3 & \text{CH}_3 & \text{CH}_3 \\ & & & \\ \text{CH}_3\text{CCH}_2\text{CCH}_2\text{CCH}_2\text{CCH}_3 \\ & & \text{H} & \\ \text{CH}_3 & \text{CH}_3 & & \text{CH}_3 \end{array}$	2-0010 (K-280)	標準(2W) 1976年実施 BOD 0, 0 (0) G C 揮散のため算出せず	難分解性 (1976)	1600 (48hr)	1977年実施 1区(2.0mg/L) : 4.7~23.7 2区(0.2mg/L) : 12.6~176 脂質含有率 -	高濃縮性 ではない (1977)	
エイコサン (112-95-8)	$\text{CH}_3(\text{CH}_2)_{18}\text{CH}_3$	2-0010 (K-449)	標準(4W) 1979年実施 BOD 92, 86 (89) G C 65, 78 (72)	良分解性 (1979)	/	/	/	/
ノナエイコサン (630-03-5)	$\text{CH}_3(\text{CH}_2)_{27}\text{CH}_3$	2-0010 (K-536)	標準(4W) 1981年実施 BOD 42, 67, 56 (55) G C 70, 89, 77 (79)	良分解性 (1981)	/	/	/	/
2, 6, 10, 15, 19, 23 - ヘキサメチルテトラコサン	$\begin{array}{cccccc} \text{CH}_3 & \text{CH}_3 & \text{CH}_3 & \text{CH}_3 & \text{CH}_3 & \text{CH}_3 \\ & & & & & \\ \text{CH}_3\text{CH}(\text{CH}_2)_3\text{CH}(\text{CH}_2)_3\text{CH}(\text{CH}_2)_4\text{CH}(\text{CH}_2)_3\text{CH}(\text{CH}_2)_3\text{CH}(\text{CH}_2)_3\text{CHCH}_3 \end{array}$	9-0762 9-1317 (K-1781)	標準(4W) 2007年実施 BOD 34, 36, 37 (36) G C 49, 48, 56 (51) 逆転予備(4W)2007年実施 BOD 68, 69, 56 (64) G C 85, 94, 92 (90)					

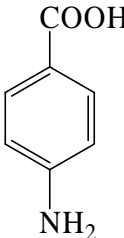
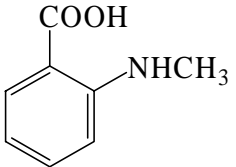
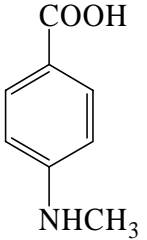
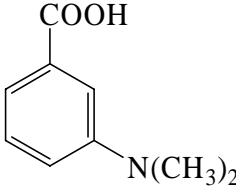
整理番号 K-1786 (NEDO 359, 3-1454)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
p-アミノ安息香酸 (150-13-0)	事業対象年度 平成18年度	契約 年 月 日	契約 年 月 日
	試験期間 18. 8.23~18.12. 4	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標) ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₇ H ₇ NO ₂ 分子量 137.14	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD 84, 84, 77 (82)%	試験結果 間接	試験結果 間接
	試験結果 直接 TOC 99, 99, 100(100)% HPLC 100, 100, 100(100)%	試験結果 直接	試験結果 直接
純度*1 100.0%	外観 白色針状微細結晶		
不純物 (物質名, 含有率)	溶解度 (対水, その他) 対水*3 6110 mg/L (30℃) 対アセトニトリル 10 g/L 以上 対メタノール 10 g/L 以上	審査部会 第68回 19年10月26日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点*1 188.4℃		判定	判定
沸点 測定不可 (融解と同時に気泡が発生)	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = 0.96*4	備考 1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構	備考 3. 特記事項 ・(汚泥+被験物質)系において、アンモニア態窒素が理論量の77~90%検出され、亜硝酸及び硝酸態窒素は検出されなかった。 ・TODの算出はNH ₃ で行った。
比重*2 1.374			
LD50*2 1,830mg/kg(oral, rabbit)	解離定数 (25℃) *3 pKa ₁ = 2.38 pKa ₂ = 4.85		
IRチャートの有無 (有) ・ 無			
用途*5 添加剤 (色素(塗料、顔料))			
生産量*5 (16年) 製造及び輸入 100~1,000 t 未満			
試料 購入先 和光純薬工業 和光特級			
経済産業公報発表年月日 年 月 日			

*1 和光純薬工業添付資料による。 *2 Dictionary of Organic Compounds(6th edition)による。

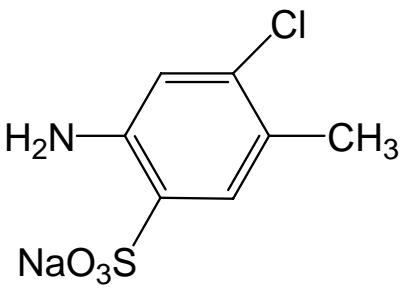
*3 Hazardous Substances Data Bank(U.S. National Library of Medicine)(2004/05)による。 *4 Kowwin v 1.67 による計算値。

*5 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

K - 1786 の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K- 番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
<i>p</i> -アミノ安息香酸 (150-13-0)		3-1454 (K-1786)	標準(4W) 2006年実施 BOD 84, 84, 77 (82) * TOC 99, 99, 100(100) HPLC 100, 100, 100(100)					
2-メチルアミノ 安息香酸 (119-68-6)		3-1449 (K-572A)	標準(2W) 1980年実施 BOD 83, 84, 87 (85) TOC 85, 96, 98 (93) HPLC 100, 100, 100(100)	良分解性 (1980)				
4-メチルアミノ 安息香酸 (10541-83-0)		3-2993 (K-572B)	標準(4W) 1981年実施 BOD 15, 9, 17 (14) TOC 7, 10, 10 (9) HPLC 0, 0, 0 (0)	難分解性 (1981)	1.01	220 (48hr)	1981年実施 1区(500µg/L) : <0.2~0.3 2区(50µg/L) : <2.4 脂質含有率 5.0%	高濃縮性 ではない (1981)
<i>m</i> -ジメチルアミノ 安息香酸 (99-64-9)		3-1455 (K-1320)	標準(4W) 1996年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 2, 1, 1 (1) HPLC 3, 0, 1 (2)	難分解性 (1996)	測定不可	>500 (48hr)	1998年実施 1区(1 mg/L) : <0.3~2.9 2区(0.1mg/L) : <3.4~56 脂質含有率 4.0%	高濃縮性 ではない (1998)

* TODの算出はNH₃で行った。

整理番号 K-143B (3-2024)		分解度試験	分解度試験	分解度試験
4-アミノ-2-クロロトルエン-5-スルホン酸ナトリウム (6627-59-4)		事業対象年度 平成18年度	事業対象年度 平成 年度	契約 年 月 日
		試験期間 18.12.26~19.5.17	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
		試験装置 (標)・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式 (示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₇ H ₇ ClNNaO ₃ S 分子量 243.65		試験濃度	試験濃度	試験濃度
		被験物質 100 mg/L 汚泥 30 mg/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L
		本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
		試験結果 間接 BOD 0, 0, 2 (1)% 直接 HPLC -2, -1, -1 (0)%	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接
	純度 99.9%*1	外観 白色結晶性粉末		
不純物 (物質名, 含有率) -	溶解度 (対水, その他) 対水 可溶	審査部会 第68回 19年10月26日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点		判定	判定	判定
沸点	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = -2.24*2	備考 1. 回収率 (汚泥+被験物質)系 100% 2. 実施機関 株式会社 三菱化学安全科学研究所	備考	備考
密度				
LD50	安定性			
チャートの有無 (有)・無				
用途*3 有機化学製品用、添加剤 (色素 (塗料、顔料))				
生産量*3 (16年) 製造及び輸入 100~1,000t 未満				
試料 和光純薬工業株式会社				
経済産業公報発表年月日 月 日				

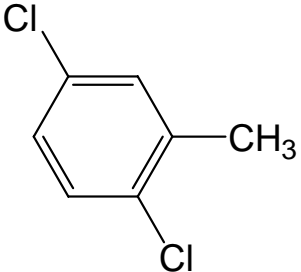
*1 和光純薬工業添付資料による。*2 Kowwin v 1.67 による計算値。*3 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

整理番号 K-663C (2-0184)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
ドコシルトリメチルアンモニウムクロライド (17301-53-0)	事業対象年度 平成18年度	事業対象年度 平成 年度	契約 年 月 日
	試験期間 19. 1. 31~19. 5. 17	試験期間 . . ~ . .	試験期間 . . ~ . .
	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式 (示性式)・物理化学的性状 $\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \\ \text{R}-\text{N}^{\oplus}-\text{CH}_3 \\ \\ \text{CH}_3 \end{array} \text{Cl}^-$ $\text{R}=\text{C}_{22}\text{H}_{45}$ 分子式 $\text{C}_{25}\text{H}_{54}\text{NCl}$ 分子量 404.16	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L 汚泥 30 mg/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD -5, -5, -6 (0)%	試験結果 間接	試験結果 間接
	試験結果 直接 HPLC 1, 0, 3 (1)%	試験結果 直接	試験結果 直接
純度 85.6%	外観 白色粉末		
不純物 (物質名, 含有率) オクタデシルトリメチルアンモニウムクロライド* 3.0%, イソシルトリメチルアンモニウムクロライド* 8.9%, テトラシルトリメチルアンモニウムクロライド* 1.0%, 水 1.6%	溶解度 (対水, その他) 対水 5%以下 アセトン 不溶 エタノール 50%以上	審査部会 第68回 19年10月26日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点		判定	判定
沸点	1-オクタノール/水分配係数	備考	備考
密度		1.回収率 (汚泥+被験物質)系 101%	
LD ₅₀	安定性 通常の使用では安定。100℃以上で 徐々に分解する。吸湿性あり。	2.実施機関 株式会社 三菱化学安全科学研究所	
チャートの有無 (有)・無			
用途*1 有機化学製品 (洗剤、殺虫剤・殺菌剤等)、溶剤、添加剤 (繊維、ゴム、樹脂)、医薬品等			
生産量*1 (16年) 製造及び輸入 1,000~10,000t 未満			
試料			
経済産業公報発表年月日 月 日			

*1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

K-663Cの類似物質表

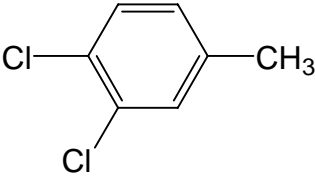
化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ビス(水素化牛脂) ジメチルアンモニウム=クロリド (61789-80-8)	 <p>一般的な製品のアルキル基 (R) の分布 C12 : 2%未満 C14 : 1~5% C16 : 25~35% C18 : 60~70% C20 : 2%未満</p>	2-184	標準(4W) BOD 0 HPLC 17	難分解性 (2002)				
セチルトリメチル アンモニウム=ブ ロミド (57-09-0)	 <p>C₁₆H₃₇</p>	2-184 9-795	標準(4W) BOD 0 TOC 17 HPLC 19 UV-VIS 0	難分解性 (1993)		0.32 (48hr)	1区(50μg/L): 407~741 2区(5μg/L): 444~677 脂質含 有率 3.9%	低濃縮性 (1993)

整理番号 K-1201C (3-0078)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
2,5-ジクロロトルエン (19398-61-9)	事業対象年度 平成18年度	事業対象年度 平成 年度	契約 年 月 日
	試験期間 19. 1.17~19. 5.17	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 標・(揮)	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₇ H ₆ Cl ₂ 分子量 161.03	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 4.17 mg/L 汚泥 50 μL/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD 0, 0 (0)% 直接 GC -2, -5 (0)%	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接
	純度*1 86.5% 外観 僅微黄色透明液体		
不純物(物質名, 含有率)*1 2,4-ジクロロトルエン: 9.9% 2,6-ジクロロトルエン: 2.5% 2,3-ジクロロトルエン: 1.2%	溶解度(対水, その他) 対水 不溶	審査部会 第68回 19年10月26日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点*1 4~5℃	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = 3.83*2	判定	判定
沸点*1 197~200℃	備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 103% (汚泥+被験物質)系 99% 2. 実施機関 株式会社 三菱化学安全科学研究所	備考	備考
密度			
LD50		安定性	
チャートの有無 (有)・無			
用途			
生産量(年)			
試料 和光純薬工業株式会社			
経済産業公報発表年月日 月 日			

*1 和光純薬工業添付資料による。*2 Kowwin v 1.67 による計算値。

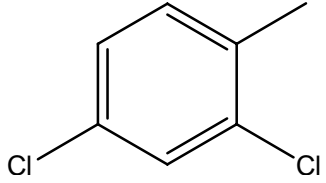
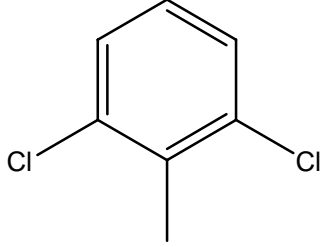
K-1201C類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
2,4-ジクロロ トルエン (95-73-8)		3-78	標準(4W) BOD 0 GC 0	難分解性 (1995)	/	4.03 (48hr)	1区(20μg/L) : 606~858 2区(2μg/L) : 639~939 脂質含有率 4.4%	低濃縮性 (1995)
2,6-ジクロロ トルエン (118-69-4)		3-78	標準(4W) BOD 0 GC 0	難分解性 (1996)	/	5.57 (48hr)	1区(20μg/L) : 379~567 2区(2μg/L) : 246~828 脂質含有率 3.9%	低濃縮性 (1996)

整理番号 K-1201D (3-0078)	分解度試験	分解度試験	分解度試験	
3,4-ジクロロトルエン (95-75-0)	事業対象年度 平成18年度	事業対象年度 平成 年度	契約 年 月 日	
	試験期間 19. 1.17~19. 5.17	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .	
	試験装置 標・ 揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮	
構造式 (示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₇ H ₆ Cl ₂ 分子量 161.03	試験濃度	試験濃度	試験濃度	
	被験物質 4.17 mg/L 汚泥 50 μL/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L	
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間	
	試験結果 間接 BOD 0, 0 (0)% 直接 GC -3, 1 (1)%	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接	
	純度*1 99.9% 外観 無色透明液体			
	不純物 (物質名, 含有率)	溶解度 (対水, その他)	審査部会 第 68回 19年10月26日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点		判定	判定	
沸点*1 205℃	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = 3.83*2	備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 103% 2. 実施機関 株式会社 三菱化学安全科学研究所	備考	
密度				
LD50	安定性*1			備考
チャートの有無 (有)・無	通常の取扱い条件においては安定。酸化剤との接触に注意する。			
用途				
生産量 (年)				
試料 東京化成工業株式会社				
経済産業公報発表年月日 月 日				

*1 和光純薬工業添付資料による。 *2 Kowwin v 1.67 による計算値。

K-1201Dの類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
2, 4-ジクロロ トルエン (95-73-8)		3-78	標準(4W) BOD 0 G C 0	難分解性 (1995)	/	4.03 (48hr)	1区(20μg/L) : 606~858 2区(2μg/L) : 639~939 脂質含有率 4.4%	低濃縮性 (1995)
2, 6-ジクロロ トルエン (118-69-4)		3-78	標準(4W) BOD 0 GC 0	難分解性 (1996)	/	5.57 (48hr)	1区(20μg/L) : 379~567 2区(2μg/L) : 246~828 脂質含有率 3.9%	低濃縮性 (1996)

整理番号 K-1373B (NEDO 357, 2-0067)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
1-ブロモペンタン (110-53-2)	事業対象年度 平成18年度	契約年月日	契約年月日
	試験期間 18. 8. 7~18.12. 8	試験期間 . . ~ . .	試験期間 . . ~ . .
	試験装置 標・ 揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状 Br(CH₂)₄CH₃ 分子式 C ₅ H ₁₁ Br 分子量 151.04	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD 39, 36, 34 (36)% 直接 GC 51, 47, 47 (48)%	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接
純度*1 99.3% (毛管カラムGC) 外観 無色透明液体	溶解度 (対水, その他) 対水*2 127 mg/L (25°C) 対酢酸エチル 10g/L 以上	審査部会 第68回 19年10月26日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点*2 -95°C	沸点*2 129.8°C	密度*1 1.218 g/cm ³ (20°C)	LD50
IRチャートの有無 有 ・無	安定性	用途*4 中間物	生産量*4 (16年) 製造及び輸入 100~1,000 t 未満
試験料 購入先 和光純薬工業	経済産業公報発表年月日 年 月 日	<p>備考</p> <p>1. 回収率 (水+被験物質)系 91.8% (汚泥+被験物質)系 94.0%</p> <p>2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構</p> <p>3. 特記事項 ・被験物質は水中で一部加水分解して1-ペンタノール(2-0217, K-1258E, H19.7.27(66), 良分解)を生成し、臭化物イオンを生成したと考えられる。(汚泥+被験物質)系では1-ペンタノールは分解し、被験物質の一部が残留した。</p> $\text{Br(CH}_2\text{)}_4\text{CH}_3 \longrightarrow \text{CH}_3(\text{CH}_2\text{)}_4\text{OH} + \text{Br}^-$ <p>被験物質 (残留) 1-ペンタノール (生分解) 臭化物イオン</p> <p>・TOC及び1-ペンタノールの生成に伴って生成したと考えられる臭化物イオン分析については、その分析用試料を調製するために前処理において試験液を一部分取する操作が必要であった。その際、被験物質の揮発性が高く損失するため、TOC及び臭化物イオン分析は実施しなかった。</p>	

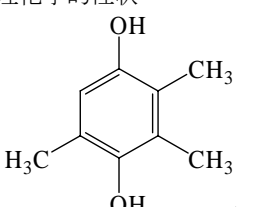
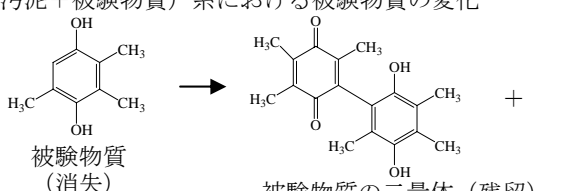
*1 和光純薬工業添付資料による。 *2 The Physical Properties Database (Jan. 2000) (Syracuse Research Corporation)による。 *3 Kowwin v 1.67による計算値。

*4 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

K-1373Bの類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
1-ブロモプロパン (106-94-5)	$\text{BrCH}_2\text{CH}_2\text{CH}_3$	2-0073 (K-1374)	標準(4W) 2002年実施 BOD 76, 86, 47 (70) HPLC 40, 42, 43 (41) 逆転(4W) (参考データ) HPLC 45, 45, 46 (45)	難分解性 (2002)	2.25 (フラスコ振とう法)		分配係数より類推	高濃縮性 ではない (2002)
1-ブロモブタン (109-65-9)	$\text{Br}(\text{CH}_2)_3\text{CH}_3$	2-0074 (K-1009)	標準(4W) 1990年実施 BOD 35, 82, 39 (52) TOC 68, 84, 68 (73) G C 75, 100, 73 (83) 逆転(4W) 1991年実施 BOD 39, -, 13 (26) TOC 100, 100, 100 (100) G C 100, 100, 100 (100) 100/100(4W) 1993年実施 BOD 71, 82, 62 (72) TOC 90, 94, 87 (90) G C 100, 100, 95 (98)	良分解性 (1993)				
1-ブロモペンタン (110-53-2)	$\text{Br}(\text{CH}_2)_4\text{CH}_3$	2-0067 (K-1373B)	標準(4W) 2006年実施 BOD 39, 36, 34 (36) G C 51, 47, 47 (48)		3.14*			

* Kowwin v 1.67 による計算値。

整理番号 K-1775 (3-0552)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
2, 3, 5-トリメチルヒドロキノン (700-13-0)		事業対象年度 平成17年度		契約 年 月 日		契約 年 月 日	
試験期間 18. 7. 3~19. 3. 22		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
試験装置 (標) ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮	
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₉ H ₁₂ O ₂ 分子量 152.19		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
純度*1 99.5%		外観 わずかにうすい褐色粉末		試験結果 間接		試験結果 間接	
不純物 (物質名, 含有率) 残り 0.5%は不明		溶解度 (対水, その他) 対水 1530 mg/L (20℃) (フラスコ法) 対テトラヒドロフラン 10 g/L 以上 対クロロホルム 10 g/L 以上 対アセトニトリル 10 g/L 以上 対1-オクタノール 1400 mg/L 以上		試験結果 直接		試験結果 直接	
融点 測定不可(142℃以上で分解)		1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 1.71		審査部会 第68回		審査部会 第 回	
沸点 測定不可(142℃以上で分解)		(pH3.1 フラスコ振とう法)		19年10月26日開催		年 月 日開催	
蒸気圧 3.52×10 ⁻⁷ Pa 以下 (25℃)		加水分解性 水中で二量体等に変化したと考えられる。		判定		判定	
密度*2 0.45 g/cm ³ (20℃)		解離定数 pH2.0~8.0の領域において非解離状態で存在する。		備考		備考	
LD50*2 3,200mg/kg(oral, rat)		IRチャートの有無 (有) ・ 無		1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。		(汚泥+被験物質)系における被験物質の変化  被験物質 (消失) → 被験物質の二量体 (残留) + 不明変化物 2成分 (残留)	
用途		2. 実施機関 ・ 財団法人 化学物質評価研究機構		3. 特記事項 ・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。		・ 本試験条件下において、被験物質は全て消失し、被験物質の二量体(2-(2,5-ジヒドロキシ-3,4,6-トリメチルフェニル)-3,5,6-トリメチル-1,4-ベンゾキノン, log Kow=4.33*3)が生成し、残留した。また、不明変化物(2成分)が生成し、1%未満残留した。 ・ HPLC クロマトグラム上の保持時間から、生成した変化物は被験物質より極性が低いと推定された。	
生産量		購入先 和光純薬工業 和光特級		経済産業公報発表年月日		年 月 日	

*1 和光純薬工業添付資料による。

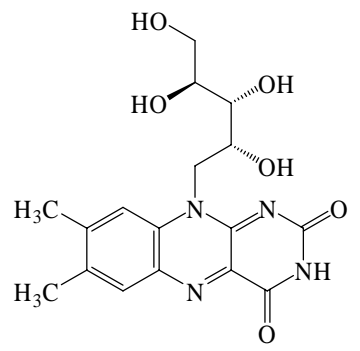
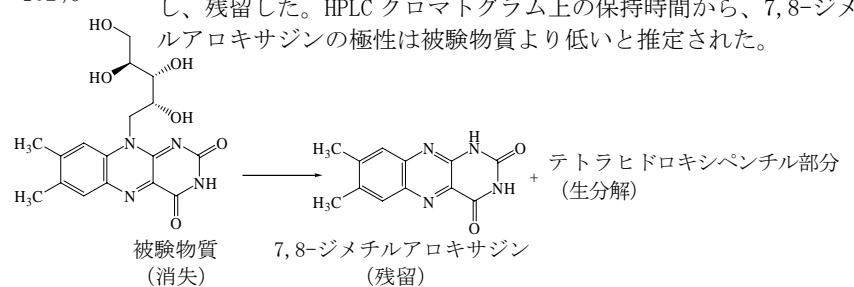
*2 International Uniform Chemical Information Database(European Chemicals Bureau)(Edition 2000)による。

*3 Kowwin v 1.67 による計算値。

K - 1775 の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
2,4,6-トリメチル フェノール (527-60-6)		3-0540 4-0057 9-0899 9-1783 (K-554)	標準(4W)1981年実施 BOD 5, 5, 12 (7) TOC 1, 0, 1 (1) HPLC 0, 0, 0 (0)	難分解性 (1981)	1982年実施 2.80 (HPLC法)	14.3 (48hr)	1982年実施 1区(0.2 mg/L) : 6.5 ~ 10 2区(0.02mg/L) : <2.7 ~ 8.1 脂質含有率 4.9%	高濃縮性 ではない (1982)
2,3,6-トリメチル フェノール (2416-94-6)		4-0057 9-0899 (K-554A)	標準(4W)2001年実施 BOD 2, 0, 0 (1) TOC 5, 7, 7 (6) HPLC 6, 5, 5 (5)	難分解性 (2001)	2002年実施 2.73 (フラスコ振とう法)		分配係数から類推	高濃縮性 ではない (2002)
2,3,5-トリメチル フェノール (697-82-5)		3-0540 4-0057 9-0899 (K-1505)	標準(4W)2000年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 0, 0, 2 (1) HPLC 2, 0, 3 (2)	難分解性 (2000)				
2,3,5-トリメチル ヒドロキノン (700-13-0)		3-0552 (K-1775)	標準(4W) 2006年実施 BOD -6, -6, -7 (0)* TOC -4, -3, -5 (0)* HPLC 100, 100, 100 (100) 〔2-(2,5-ジヒドロキシ-3,4,6-トリメチルフェニル)-3,5,6-トリメチル-1,4-ベンゾキノンを生成し、残留した。〕		2006年実施 1.71 (フラスコ振とう法)			

* 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

整理番号 K-1778 (NEDO 345, 9-2282)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
7,8-ジメチル-10-(D-リボ-2,3,4,5-テトラヒドロ	事業対象年度 平成18年度	契約年月日	契約年月日
キシペンチル)-イソアロキサジン (83-88-5)	試験期間 18.12.11~19.1.31	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標)・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₁₇ H ₂₀ N ₄ O ₆ 分子量 376.36	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD 19, 18, 20 (19)% 直接 HPLC 100, 100, 100(100)%	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接
純度* ¹ 100%	外観 橙黄色粉末	審査部会 第68回 19年10月26日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
不純物(物質名,含有率)	溶解度(対水,その他) 対水* ³ 84.7 mg/L(25℃)	判定	判定
融点* ² 278~282℃(分解)	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = -1.05* ⁴	備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 101% (汚泥+被験物質)系 102% 2. 実施機関 ・広栄テクノ株式会社 3. 特記事項 ・被験物質は消失し、テトラヒドロキシペンチル部分は生分解されたと考えられ、7,8-ジメチルアロキサジン(log Kow = 1.86* ⁴)を生成し、残留した。HPLCクロマトグラム上の保持時間から、7,8-ジメチルアロキサジンの極性は被験物質より低いと推定された。 	
沸点 測定不可			
密度 1.488 g/cm ³ (25℃)			
LD ₅₀	安定性		
IRチャートの有無 (有)・無			
用途* ⁵ 添加剤(その他)			
生産量* ⁵ (16年) 製造及び輸入 10~100 t 未滿			
試料 購入先 東京化成工業			
経済産業公報発表年月日	年 月 日		

*1 HPLCによる。 *2 The Merck Index(13th edition)による。 *3 The Physical Properties Database(Syracuse Research Corporation)による。
 *4 Kowwin v 1.67による計算値。 *5 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

整理番号 K-1791 (2-3341)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
1, 1, 3, 3-テトラメチル-2-[3-(トリメトキシシリル)プロピル]グアニジン (69709-01-9)		事業対象年度 平成18年度		契約年月日		契約年月日	
		試験期間 18. 6. 27~18. 12. 14		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
		試験装置 (標) ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮	
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状 $\begin{array}{c} \text{OCH}_3 \\ \\ \text{H}_3\text{CO}-\text{Si}-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{N}=\text{C}-\text{N}(\text{CH}_3)_2 \\ \\ \text{OCH}_3 \end{array}$ 分子式 C ₁₁ H ₂₇ N ₃ O ₃ Si 分子量 277.44		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
純度*1 99.7%		外観 無色透明液体		試験結果 間接		試験結果 間接	
不純物*1 (物質名, 含有率)		溶解度*1 (対水, その他)		試験結果 直接		試験結果 直接	
メタノール 0.1%		対水 加水分解のため測定不可		BOD 22, 22, 23 (22)%			
不明 0.2%		対アセトン 可溶		TOC 21, 22, 22 (22)%			
		対テトラヒドロフラン 可溶		被験物質分解度は算出不可*			
		対トルエン 可溶					
融点 融点は測定温度範囲 (-100~50℃) に存在しない。		1-オクタノール/水分分配係数 log Kow = -0.25*2		審査部会 第68回		審査部会 第 回	
沸点 214.1℃ (大気圧)				19年10月26日開催		年 月 日開催	
蒸気圧 2.53×10 ² Pa (25℃, 外挿値)		加水分解性		判定		判定	
比重*1 1.00 (25℃)		水溶液中で速やかに加水分解されるため測定不可。		判定		判定	
LD50		解離定数		備考		3. 特記事項 ・ 被験物質は試験液中で完全に加水分解し、メタノール(2-0201, K-1082, H5. 2. 12 (180) 良分解)、1, 1, 3, 3-テトラメチル-2-[3-(トリヒドロキシシリル)プロピル]グアニジン(log Kow = -1.94*2)を生成した。	
IRチャートの有無 (有) ・ 無		水溶液中で速やかに加水分解されるため測定不可。					
用途				1. ※被験物質は試験液中で速やかに加水分解し、理論量のメタノールの生成を確認した。このため被験物質の定量分析条件を確立することができず、被験物質の分析が実施できなかった。従って、被験物質の直接分析による分解度は算出不可能であった。		$\begin{array}{c} \text{OCH}_3 \\ \\ \text{H}_3\text{CO}-\text{Si}-(\text{CH}_2)_3-\text{N}=\text{C}-\text{N}(\text{CH}_3)_2 \\ \\ \text{OCH}_3 \end{array} \longrightarrow 3\text{CH}_2\text{OH} + \begin{array}{c} \text{OH} \\ \\ \text{HO}-\text{Si}-(\text{CH}_2)_3-\text{N}=\text{C}-\text{N}(\text{CH}_3)_2 \\ \\ \text{OH} \end{array}$ 被験物質(速やかに変化) メタノール(生分解) 1, 1, 3, 3-テトラメチル-2-[3-(トリヒドロキシシリル)プロピル]グアニジン(残留)	
生産量*3 (11年) 製造及び輸入 1~10 t 未満							
試料				2. 実施機関 ・ 財団法人 化学物質評価研究機構		(汚泥+被験物質)系では、メタノールは検出されず、1, 1, 3, 3-テトラメチル-2-[3-(トリヒドロキシシリル)プロピル]グアニジンが残留した。	
経済産業公報発表年月日 年 月 日							

*1 提供者添付資料による。

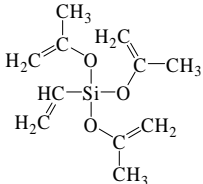
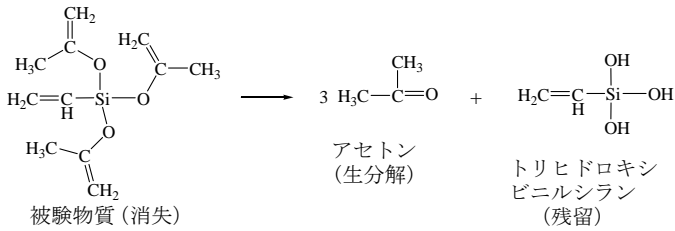
*2 Kowwin v 1.67 による計算値。

*3 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

K - 1791の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ビニルトリメトキシシラン (2768-02-7)	$\begin{array}{c} \text{OCH}_3 \\ \\ \text{H}_3\text{CO}-\text{Si}-\text{CH}=\text{CH}_2 \\ \\ \text{OCH}_3 \end{array}$	2-2066 (K-1133)	標準(4W) 1999年実施 BOD 60, 56, 56 (57) TOC 59, 60, 61 (60) HPLC 100, 100, 100(100) (水中で加水分解し、ビニルトリヒドロキシシランを生成し、残留した。)	難分解性 (1999)				
3-メルカプトプロピルトリメトキシシラン (4420-74-0)	$\begin{array}{c} \text{OCH}_3 \\ \\ \text{H}_3\text{CO}-\text{Si}-\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{SH} \\ \\ \text{OCH}_3 \end{array}$	2-2045 (K-1292)	標準(4W) 1998年実施 BOD 38, 38, 38 (38) TOC 51, 48, 52 (50) HPLC 100, 100, 100(100) (水中で加水分解し、3-メルカプトプロピルトリヒドロキシシランを生成し、残留した。)	難分解性 (1998)				
3-アミノプロピルトリエトキシシラン (919-30-2)	$\begin{array}{c} \text{OCH}_2\text{CH}_3 \\ \\ \text{CH}_3\text{CH}_2\text{O}-\text{Si}-\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{NH}_2 \\ \\ \text{OCH}_2\text{CH}_3 \end{array}$	2-2061 (K-1295)	標準(4W) 2000年実施 BOD 54, 52, 55 (54) TOC 63, 64, 65 (64) (水中で速やかに加水分解し、3-アミノプロピルトリヒドロキシシランを生成し、残留した。)	難分解性 (2000)	加水分解のため 測定不可	>1000 (96hr)	2001年実施* 定常状態における濃縮倍率 1区(2 mg/L) : <0.53 2区(0.2mg/L) : <5.4 脂質含有率 開始前 1.62% 終了後 1.63%	高濃縮性 ではない (2001)
N-(2-アミノエチル)- -アミノプロピルトリメトキシシラン (1760-24-3)	$\begin{array}{c} \text{OCH}_3 \\ \\ \text{H}_3\text{CO}-\text{Si}-\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{NHCH}_2\text{CH}_2\text{NH}_2 \\ \\ \text{OCH}_3 \end{array}$	2-2059 2-2083 (K-1134)	標準(4W) 1995年実施 BOD 23, 26, 28 (26) TOC 39, 38, 39 (38) G C 100, 100, 100(100) (水中で速やかに加水分解し、N-(アミノエチル)-アミノプロピルトリヒドロキシシランを生成し、残留した。)	難分解性 (1995)				
1,1,3,3-テトラメチル- 2-[3-(トリメトキシシリル)プロピル]グアニジン (69709-01-9)	$\begin{array}{c} \text{OCH}_3 \\ \\ \text{H}_3\text{CO}-\text{Si}-\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{N}(\text{CH}_3)_2 \\ \\ \text{OCH}_3 \end{array}$	2-3341 (K-1791)	標準(4W) 2006年実施 BOD 22, 22, 23 (22) TOC 21, 22, 22 (22) (水中で速やかに加水分解し、1,1,3,3-テトラメチル-2-[3-(トリヒドロキシシリル)プロピル]グアニジンを生成し、残留した。)					

* 濃縮度試験のばく露は3-アミノプロピルトリヒドロキシシランで行った。

整理番号 K-1792 (2-3197)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
トリ (イソプロペニルオキシ) ビニルシラン (15332-99-7)		事業対象年度 平成18年度		契約 年 月 日		契約 年 月 日	
		試験期間 18. 7. 12~18. 12. 8		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
		試験装置 (標) ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮	
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₁₁ H ₁₈ O ₃ Si 分子量 226.34		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
純度*1 98.6%		外観 無色透明液体		試験結果 間接		試験結果 間接	
不純物*1 (物質名, 含有率)		溶解度 (対水, その他)		試験結果 直接		試験結果 直接	
異性体 0.3%		対水 加水分解のため測定不可					
ダイマー 0.8%		対アセトニトリル 10g/L 以上					
アセトン 0.3%		対酢酸エチル 10g/L 以上					
融点 融点は測定温度範囲 (-100~25℃) に存在しない。		1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 4.8 (HPLC法)*2		審査部会 第68回 19年10月26日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催	
沸点 測定不可 (190℃以上で分解していると考えられる)		加水分解性 水溶液中で速やかに加水分解するため測定不可		審査部会 第 回 年 月 日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催	
蒸気圧 91.3 Pa (25℃, 外挿値)		安定性		判定		判定	
比重				判定		判定	
LD50				備考		備考	
IRチャートの有無 (有) ・ 無				1. 回収率 (水+被験物質)系 93.1% (汚泥+被験物質)系 91.4%		3. 特記事項 ・ 被験物質は試験液中で全量変化し、アセトン(2-0542, K-1746, H17.11.18 (49)良分解)、トリヒドロキシビニルシラン(log Kow = -2.01*3)を生成した。	
用途				2. 実施機関 ・ 財団法人 化学物質評価研究機構			
生産量*4 (11年) 製造及び輸入 10~100 t 未満						アセトン (生分解) トリヒドロキシビニルシラン (残留)	
試料 購入先							
経済産業公報発表年月日							

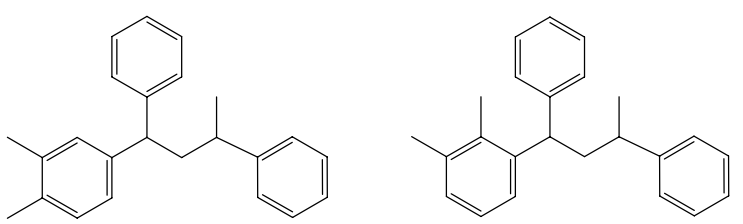
*1 提供者添付資料による。 *2 溶離液：アセトニトリル/精製水 (7/3 V/V) *3 Kowwin v 1.67 による計算値。 *4 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

K - 1792の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ビニルトリメトキシシラン (2768-02-7)	$\begin{array}{c} \text{OCH}_3 \\ \\ \text{H}_3\text{CO}-\text{Si}-\text{CH}=\text{CH}_2 \\ \\ \text{OCH}_3 \end{array}$	2-2066 (K-1133)	標準(4W) 1999年実施 BOD 60, 56, 56 (57) TOC 59, 60, 61 (60) HPLC 100, 100, 100(100) 〔水中で加水分解し、ビニルトリヒドロキシシランを生成し、残留した。〕	難分解性 (1999)	加水分解のため 測定不可			
3-メルカプトプロピルトリメトキシシラン (4420-74-0)	$\begin{array}{c} \text{OCH}_3 \\ \\ \text{H}_3\text{CO}-\text{Si}-\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{SH} \\ \\ \text{OCH}_3 \end{array}$	2-2045 (K-1292)	標準(4W) 1998年実施 BOD 38, 38, 38 (38) TOC 51, 48, 52 (50) HPLC 100, 100, 100(100) 〔水中で加水分解し、3-メルカプトプロピルトリヒドロキシシランを生成し、残留した。〕	難分解性 (1998)	加水分解のため 測定不可			
3-アミノプロピルトリエトキシシラン (919-30-2)	$\begin{array}{c} \text{OCH}_2\text{CH}_3 \\ \\ \text{CH}_3\text{CH}_2\text{O}-\text{Si}-\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{NH}_2 \\ \\ \text{OCH}_2\text{CH}_3 \end{array}$	2-2061 (K-1295)	標準(4W) 2000年実施 BOD 54, 52, 55 (54) TOC 63, 64, 65 (64) 〔水中で速やかに加水分解し、3-アミノプロピルトリヒドロキシシランを生成し、残留した。〕	難分解性 (2000)	加水分解のため 測定不可	>1000 (96hr)	2001年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(2 mg/L) : <0.53 2区(0.2mg/L) : <5.4 脂質含有率 開始前 1.62% 終了後 1.63%	高濃縮性 ではない (2001)

K - 1792の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
<p><i>N</i>-(2-アミノエチル)- -アミノプロピル トリメトキシシラン (1760-24-3)</p>	$\begin{array}{c} \text{OCH}_3 \\ \\ \text{H}_3\text{CO}-\text{Si}-\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{NHCH}_2\text{CH}_2\text{NH}_2 \\ \\ \text{OCH}_3 \end{array}$	<p>2-2083 (K-1134)</p>	<p>標準(4W) 1995年実施 BOD 23, 26, 28 (26) TOC 39, 38, 39 (38) G C 100, 100, 100(100)</p> <p>〔水中で速やかに加水分解し、<i>N</i>-(アミノエチル)-<i>N</i>-アミノプロピルトリヒドロキシシランを生成し、残留した。〕</p>	<p>難分解性 (1995)</p>				
<p>トリ(イソプロペニ ルオキシ)ビニルシ ラン (15332-99-7)</p>	$\begin{array}{c} \text{CH}_2 \\ \\ \text{H}_3\text{C}-\text{C} \\ \\ \text{O} \\ \\ \text{H}_2\text{C}=\text{CH}-\text{Si}-\text{O}-\text{C}=\text{CH}_2 \\ \quad \\ \text{O} \quad \text{CH}_3 \\ \\ \text{C}-\text{CH}_3 \\ \\ \text{CH}_2 \end{array}$	<p>2-3197 (K-1792)</p>	<p>標準(4W) 2006年実施 BOD 71, 67, 67 (68) G C 100, 100, 100(100)</p> <p>〔水中で加水分解し、トリヒドロキシビニルシランを生成し、残留した。〕</p>		<p>2006年実施 4.8 (HPLC法)</p>			

整理番号 K-1798B (4-0071)		分解度試験		分解度試験		分解度試験		
1-キシリル-1,3-ジフェニルブタン (74921-47-4)		事業対象年度 平成18年度		事業対象年度 平成 年度		契約 年 月 日		
		試験期間 19. 2.14~19. 5.17		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .		
		試験装置 (標) ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  4-(1,3-diphenylbutyl)-1,2-dimethylbenzene 分子式 C ₂₄ H ₂₆ 3-(1,3-diphenylbutyl)-1,2-dimethylbenzene 分子量 314.46		試験濃度		試験濃度		試験濃度		
		被験物質 100 mg/L 汚泥 30 mg/L		被験物質 mg/L 汚泥 mg/L		被験物質 mg/L 汚泥 mg/L		
		本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間		
		試験結果 間接	BOD 0, 0, 0 (0)%		試験結果 間接			試験結果 間接
試験結果 直接	GC 1, 1, 1 (1)%		試験結果 直接			試験結果 直接		
	純度*1 93%	外観 粘調, 無色透明		審査部会 第 68 回 19年10月26日開催			審査部会 第 回 年 月 日開催	
不純物 (物質名, 含有率) *1 不明物 1:3%, 不明物 2:4%, C ₂₄ H ₂₆ で構造は不明	溶解度 (対水, その他) 対水 不溶 アセトン 可溶 ジメチルスルホキシド 可溶		判定		判定		判定	
融点*1 0℃以下	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = 7.86*2		備考		備考		備考	
沸点*1 300℃以上			1. 回収率 (汚泥+被験物質) 系 100%					
密度	安定性 -		2. 実施機関 株式会社 三菱化学安全科学研究所					
LD50								
チャートの有無 (有) ・ 無								
用途								
生産量 (年)								
試料								
経済産業公報発表年月日	月 日							

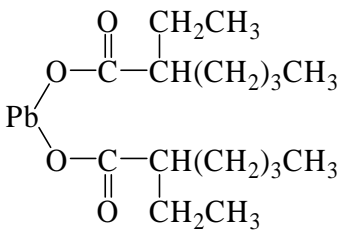
*1 提供先添付資料による。*2 Kowwin v 1.67 による計算値。

整理番号 K-1807 (NEDO 383, 2-0615)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
2-エチルヘキサン酸鉛塩	事業対象年度 平成18年度	契約年月日	契約年月日
(301-08-6)	試験期間 19. 1. 17~19. 3. 19	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標) ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₁₆ H ₃₀ O ₄ Pb 分子量 493.61	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
純度*1 99.3%	外観 粘性液体	試験結果 間接	試験結果 間接
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 0.7%は不明	溶解度(対水, その他) 対水 加水分解のため測定不可 対アセトニトリル 1 g/L 以下 対メタノール 1 g/L 以上 対クロロホルム 10 g/L 以上	試験結果 直接	試験結果 直接
融点 融点は測定範囲(-100~50℃)に存在しない	1-オクタノール/水分配係数	審査部会 第68回	審査部会 第 回
沸点 測定不可(約300℃で黒褐色に変化)	適用外物質(金属塩)	19年10月26日開催	年月日開催
蒸気圧 133Pa 以下(80℃)	加水分解性	備考	3. 特記事項
密度*2 1.56 g/cm ³ (20℃)	速やかに加水分解するため加水分解速度定数の測定不可	1. *被験物質は試験液中で速やかに加水分解し、理論量の2-エチルヘキサン酸が生成することを確認した。このため被験物質を試験液から回収することができず、被験物質の分析が実施できなかった。従って、被験物質の直接分析による分解度は算出不可能であった。	
LD50	解離定数 解離基なし		
IRチャートの有無 (有) ・ 無		2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構	2-エチルヘキサン酸 (微生物により分解) + 形態不明の無機の不溶性鉛 (残留)
用途*3 有機化学製品用(洗剤等、合成樹脂、シリング剤、ゴム製品)、添加剤(油用、樹脂用、ゴム用)、その他製品用(触媒)			・被験物質は水中で速やかに変化し、(汚泥+被験物質)系において、2-エチルヘキサン酸(2-0608)及び不溶性鉛(水にも有機溶媒にも溶解しない無機の鉛)が生成した。2-エチルヘキサン酸は微生物により分解され、不溶性鉛は試験液中に残留した。また、(水+被験物質)系において、2-エチルヘキサン酸と水溶性鉛を生成し、残留した。
生産量*3 (16年) 製造及び輸入 10,000~100,000 t 未満			
試料			
経済産業公報発表年月日	年月日		

*1 提供者添付資料の鉛含有率(41.70%)より算出。 *2 提供者のMSDS(1/24/2007)による。

*3 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

K-1807の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
酸化鉛(Ⅱ) (1317-36-8)	PbO	1-0527 (K-434)				>100 (48hr)	1995年実施 1区(400µg/L) : 9.1~24 2区(40 µg/L) : <43 脂質含有率 3.5%	高濃縮性 ではない (1995)
四三酸化鉛 (1314-41-6)	Pb ₃ O ₄	1-0527 (K-436)				>10.0 (48hr)	1996年実施 1区(400µg/L) : 8.6~237 2区(40 µg/L) : <78 脂質含有率 4.0%	高濃縮性 ではない (1996)
硝酸鉛 (10099-74-8)	Pb(NO ₃) ₂	1-0488 (K-1632)				16.4 (96hr)	2002年実施 定常状態における濃縮倍率 1区 : 160 2区 : 210 脂質含有率 開始前 2.37% 終了後 3.21%	高濃縮性 ではない (2002)
2-エチルヘキサン酸 鉛塩 (301-08-6)		2-0615 (K-1807)	標準(4W) 2007年実施 BOD 102, 101, 94 (99)		適用外物質			

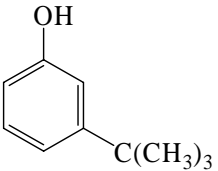
整理番号 K-1808 (NEDO 384, 2-1247)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
ビス(ジブチルジチオカルバミン酸)ニッケル (13927-77-0)	事業対象年度 平成18年度	契約年月日	契約年月日
	試験期間 18.10.23~19.2.21	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標)・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₁₈ H ₃₆ N ₂ NiS ₄ 分子量 467.45	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
純度*1 100%	外観 緑黄色粉末	試験結果	試験結果
不純物(物質名, 含有率)	溶解度(対水, その他) 対水 0.134µg/L 以下 (カラム溶出法, 20°C) 対クロロホルム 10 g/L 以上 対アセトニトリル 10 g/L 以上	間接 BOD 3, 4, 2 (3)% 直接 HPLC -2, -1, -4 (0)%	間接 直接
融点 89.2°C	1-オクタノール/水分配係数 適用外物質(金属塩)	審査部会 第68回 19年10月26日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
沸点 測定困難 (250°C以上で分解)		判定	判定
蒸気圧 1.50×10 ⁻⁵ Pa 以下 (測定温度 80°C)	加水分解性	備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 97.1% (汚泥+被験物質)系 94.1% 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構 3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。	備考
比重*2 1.27~1.31			
LD50	解離定数 測定不可		
IRチャートの有無 (有)・無			
用途*3 添加剤(ゴム用)			
生産量*3 (13年) 製造及び輸入 100~1,000 t 未満			
試料			
経済産業公報発表年月日	年 月 日		

*1 HPLC による。 *2 有機化合物辞典(講談社)による。 *3 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

K - 1808の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ジメチルジチオカルバ ミン酸ナトリウム (128-04-1)		2-1249 (K-926)	標準(4W) 1990年実施 BOD 0, 0, 6 (2) HPLC 63, 67, 69 (66) 〔一部変化し、二硫化炭素及び ジメチルアミンを生成し、残留 した。〕	難分解性 (1990)	/	/	二硫化炭素(難分解、低濃 縮)及びジメチルアミン 良分解)から類推	高濃縮性 ではない (1993)
ジエチルジチオカルバ ミド酸亜鉛 (14324-55-1)		2-1843 (K-1289)	標準(4W) 1998年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 41, 35, 33 (37) 〔一部変化し、二硫化炭素及び ジエチルアミンを生成し、残留 した。〕	難分解性 (1998)	/	/		
ビス(ジブチルジチオ カルバミン酸)亜鉛 (136-23-2)		2-2122 (K-1299)	標準(4W) 1998年実施 BOD 6, 5, 3 (5) HPLC 3, 1, 2 (2)	難分解性 (1998)	/	/		
ビス(ジブチルジチオ カルバミン酸)ニッケル (13927-77-0)		2-1247 (K-1808)	標準(4W) 2007年実施 BOD 3, 4, 2 (3) HPLC -2, -1, -4 (0)*		適用外物質			

* 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

整理番号 K-81B (3-0503)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
3-tert-ブチルフェノール (585-34-2)		事業対象年度 平成16年度		指示年月日		指示年月日	
		試験期間 16.11.26~17.4.15		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
		試験装置 (標)・揮		試験装置 標・揮		試験装置 標・揮	
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₁₀ H ₁₄ O 分子量 150.22		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 4週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
純度*1 99.9%		外観 白色固体		試験結果 間接		試験結果 間接	
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り0.1%は不明		溶解度(対水, その他) 対水 1.39 g/L (20℃) 対アセトニトリル 1 g/L 以上		試験結果 直接		試験結果 直接	
		審査部会 第68回 19年10月26日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催	
融点 43.0℃		1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 2.6 (HPLC法)*2		判定		判定	
沸点 241.3℃		加水分解性 pH4, 7, 9 加水分解性なし		備考		備考	
蒸気圧 1.63×10 ⁰ Pa (25℃)		解離定数 pKa = 10.12 (分光光度法)		1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構			
密度							
LD50							
IRチャートの有無 (有)・無							
用途*3 中間物							
生産量*3 (11年) 製造及び輸入 10~100 t 未満							
試料 購入先 東京化成工業 TCI-GR							
経済産業公報発表年月日 年 月 日							

*1 東京化成工業添付資料による。

*2 溶離液:アセトニトリル/りん酸塩緩衝液(pH7.0) (1/1 V/V)

*3 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

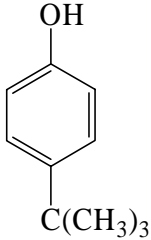
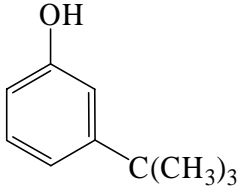
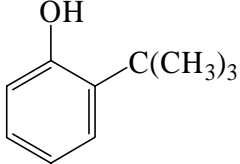
濃縮度試験					事業対象年度 平成17年度					濃縮度試験									
試験期間					17. 5. 27 ~ 17. 6. 3					試験期間					. . . ~ . . .				
試験装置 標・揮		LC50値			mg/L(hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50値			mg/L(hr)魚種()						
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()														
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤												
第1濃度区					第1濃度区														
第2濃度区					第2濃度区														
第3濃度区					第3濃度区														
濃縮倍率		脂質含有率			開始前		% 魚種()			濃縮倍率		脂質含有率			開始前		% 魚種()		
		終了後			%							終了後			%				
		日後			日後		日後					日後			日後		日後		
第1	水槽濃度 ()					第1		水槽濃度 ()											
	倍率					第1		倍率											
第2	水槽濃度 ()					第2		水槽濃度 ()											
	倍率					第2		倍率											
第3	水槽濃度 ()					第3		水槽濃度 ()											
	倍率					第3		倍率											
審査部会 第68回 19年 10月 26日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催														
判定結果					判定結果														
備考					備考														
分配係数から類推																			
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構																			

毒性試験
年月日

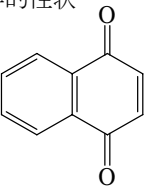
依
頼

経過

K - 8 1 Bの類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K- 番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
<i>p</i> -tert-ブチル フェノール (98-54-4)		3-0503 (K-0081)	標準(2W) 1975年実施 BOD 0, 0 (0) TOC 5, 3 (4) G C 4, 1 (3) U V(273nm) 4, 4 (4) 逆転(2W) 1975年実施 BOD 0, 0 (0) TOC 2, 0 (1) G C 0, 0 (0) U V(274nm) 0, 0 (0)	難分解性 (1975)	1996年実施 3.29	4.0 (48hr)	1976年実施 1区(40mg/L): 20~43 2区(4mg/L): <48~88 脂質含有率 -	高濃縮性 ではない (1976)
3-tert-ブチル フェノール (585-34-2)		3-0503 (K-0081B)	標準(4W) 2005年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 0, 0, 0 (0) HPLC 0, 0, 0 (0)		2005年実施 2.6 (HPLC法)		分配係数から類推	
<i>o</i> -tert-ブチル フェノール (88-18-6)		3-0503 (K-81C)	標準(4W) 2005年実施 BOD -3, -4, -4 (0)* TOC 35, 40, 25 (33) HPLC 32, 39, 23 (31)	難分解性 (2007)	2007年実施 3.74 (フラスコ振とう法)			

* 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

整理番号 K-606 (4-0372)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
1,4-ナフトキノン (130-15-4)		事業対象年度 平成17年度		契約年月日		契約年月日	
		試験期間 18. 7. 25~19. 3. 22		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
		試験装置 (標) ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮	
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₁₀ H ₆ O ₂ 分子量 158.15		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
純度*1 97.7% (滴定)		外観 黄色粉末		試験結果 間接		試験結果 間接	
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 2.3%については不明		溶解度 (対水, その他) 対水 234 mg/L (20℃) (フラスコ法) 対1-オクタノール 1 g/L 以上 対メタノール 10 g/L 以上 対テトラヒドロフラン 10 g/L 以上		試験結果 直接		試験結果 直接	
融点 120.6~125.5℃ (融点範囲)		1-オクタノール/水分分配係数 log Pow = 1.77 (フラスコ振とう法)		審査部会 第68回 19年10月26日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催	
沸点 測定範囲(室温~350℃)で 沸点は観察されなかった。		加水分解性 pH4 加水分解性なし pH7,9 測定不可 (高分子化するため)		判定		判定	
蒸気圧 4.65×10 ⁻² Pa (25℃)		解離定数 解離基なし		備考 1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構 3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。		備考 ・(汚泥+被験物質)系において被験物質は、6~11%残留し、溶解していた4種の変化物の生成率はいずれも1%未満であった。 ・定性分析の結果、4種の変化物は被験物質の2~3量体程度の分子量であったが構造特定には至らなかった。 ・試験駅に不溶な変化物は、GPCで分子量1000未満成分が検出されなかった。	
比重*2 1.422							
LD50*2 190mg/kg(oral, rat)							
IRチャートの有無 (有) ・ 無							
用途*3 アントラキノン製造用原料、医薬品、農薬、脱硫触媒、染料中間体の合成原料							
生産量 (年)							
試料 購入先 東京化成工業 TCI-EP							
経済産業公報発表年月日		年 月 日					

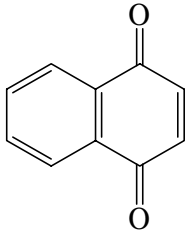
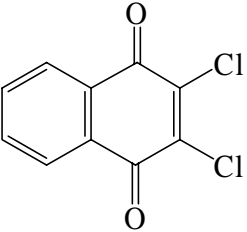
*1 東京化成工業添付資料による。

*2 Hazardous Substances Data Bank(U.S. National Library of Medicine) (8/2006)による。

*3 有機化合物辞典 (講談社) による。

濃縮度試験					事業対象年度					平成18年度					濃縮度試験					濃縮度試験																			
試験期間					18. 5. 22 ~ 18. 7. 7					試験期間					. . . ~ . . .					毒性試験																			
試験装置 標・揮					LC50値 mg/L(hr)魚種()					試験装置 標・揮					LC50値 mg/L(hr)魚種()					年月日																			
水槽設定濃度 ()										水槽設定濃度 ()										依 頼 經過																			
被験物質					分散剤					被験物質					分散剤																								
第1濃度区										第1濃度区																													
第2濃度区										第2濃度区																													
第3濃度区										第3濃度区																													
濃縮倍率					脂質含有率					濃縮倍率					脂質含有率										開始前					% 魚種()									
					終了後										終了後																								
					日後										日後										日後					日後					日後				
第1					水槽濃度 ()					第1					水槽濃度 ()										第1					水槽濃度 ()									
					倍率															倍率																			
第2					水槽濃度 ()					第2					水槽濃度 ()					第2					水槽濃度 ()														
					倍率																				倍率														
第3					水槽濃度 ()					第3					水槽濃度 ()					第3					水槽濃度 ()														
					倍率																				倍率														
審査部会					第68回					審査部会					第 回					19年 10月 26日 開催					年 月 日 開催														
判定結果										判定結果																													
備考					分配係数から類推					備考																													
					[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構																																		

K - 6 0 6 の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
1,4 - ナフトキノ (130-15-4)		4-0372 (K-606)	標準(4W) 2007年実施 BOD -7, -6, -8 (0)* TOC 49, 50, 48 (49) HPLC 90, 93, 87 (90)		2006年実施 1.77 (フラスコ振とう法)		分配係数から類推	
2,3 - ジクロロ - 1,4 - ナフトキノ (117-80-6)		4-0378 (K-270)	標準(2W) 1976年実施 BOD 0, 0 (0) G C 5, 5 (5)	難分解性 (1977)	2002年実施 2.83 (フラスコ振とう法)		分配係数から類推	高濃縮性 ではない (2002)

* 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0 と表記した。

整理番号 K-663B (2-0184)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
ジデシルジメチルアンモニウムクロリド (7173-51-5)	事業対象年度 平成18年度	契約年月日	契約年月日
	試験期間 18.11.6~19.3.12	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標) ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状 $\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \\ \text{H}_3\text{C}-\text{N}^+-\text{(CH}_2\text{)}_9-\text{CH}_3 \text{ Cl}^- \\ \\ \text{(CH}_2\text{)}_9-\text{CH}_3 \end{array}$ 分子式 C ₂₂ H ₄₈ ClN 分子量 362.08	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果	試験結果	試験結果
純度*1 ①95.6% ②99.9%	間接 BOD -3, -2, -2 (0)%	間接	間接
外観 淡黄色固体	直接 LC-MS 0, -1, -1 (0)%	直接	直接
不純物*1 (物質名, 含有率)	審査部会 第68回	審査部会 第 回	審査部会 第 回
① 2-プロパノール 4.4%	19年10月26日開催	年月日開催	年月日開催
② 2-プロパノール 0.1%	判定	判定	判定
溶解度 (対水, その他)	備考	備考	備考
対水 300g/L 以上 (目視による)	1. 回収率	(水 + 被験物質) 系 99.6%	(汚泥 + 被験物質) 系 99.4%
対メタノール 10g/L 以上	2. 実施機関	・ 財団法人 化学物質評価研究機構	
融点 46.4℃ (融解ピークの頂点の温度)	3. 特記事項	・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。	
沸点 173.1℃		・ 被験物質は全有機炭素計の配管に吸着することが認められたため、TOCによる分解度は算出できなかった。	
蒸気圧 5.43×10 ² Pa (25℃)			
密度			
LD50			
IRチャートの有無 (有) ・ 無			
用途*2 合成樹脂、洗剤等、殺虫剤殺菌剤等、潤滑油、切削油等、添加剤 (繊維用、ゴム用、樹脂用) 色素、触媒			
生産量*2 (16年) 製造及び輸入 1,000~10,000 t 未満			
試料*3 購入先 和光純薬工業			
経済産業公報発表年月日 年月日			

*1 HPLCによる。 *2 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

*3 試料を混合し、試料中の2-プロパノールをエバポレーターで留去した試料を被験物質として使用した。

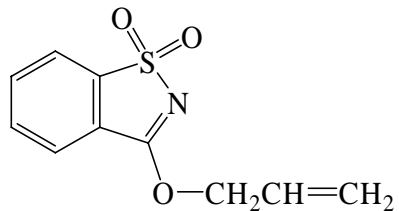
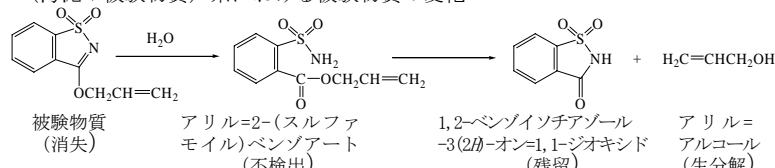
①分解度試験 ②濃縮度試験

事業対象年度		平成18年度						依 頼	毒性試験
試験期間		18. 11. 20 ~ 19. 3. 14							年月日
試験装置 (標)・揮	LC50値 0.707 mg/L(96hr)魚種(ヒメダカ)								
水槽設定濃度 (μg/L)									
	被験物質	分散剤						経過	
		2-メトキシエタノール							
第1濃度区	5								
第2濃度区	0.5								
第3濃度区									
濃縮倍率 脂質含有率 開始前 3.75% 魚種(コイ) 終了後 5.79%									
		7日後	14日後	21日後	24日後	28日後	49日後		60日後
第1	水槽濃度(μg/L)	4.43	4.44	4.37	4.36	4.74	4.56		4.45
	倍率	67	140	180	130	55	81		70
第2	倍率	81	130	130	61	59	61	54	
	水槽濃度(μg/L)	0.469	0.479	0.464	0.411	0.476	-	-	
第2	倍率	95	47	71	52	52	-	-	
	倍率	92	77	90	65	57	-	-	
第3	水槽濃度()								
	倍率								
審査部会 第68回 19年 10月 26日 開催									
判定結果									
備考									
[定常状態における濃縮倍率] 第1濃度区 63倍									
[ばく露期間における濃縮倍率] 第2濃度区 47~ 95倍									
[回収率]			[定量下限濃度]						
			試験水 第1濃度区 0.25 μg/L						
			第2濃度区 0.025μg/L						
供試魚 73.3%			供試魚 17 ng/g						
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構									

K - 6 6 3 B の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
セチルトリメチルアン モニウム = プロミド (57-09-0)	$\text{C}_{16}\text{H}_{33}-\text{N}^+\begin{matrix} \text{CH}_3 \\ \\ \text{CH}_3 \end{matrix}-\text{CH}_3 \quad \text{Br}^-$	2-0184 (K-663)	標準(4W) 1984年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 21, 16, 14 (17) HPLC 19, 19, 19 (19) VIS(607nm) 0, 0, 0 (0)	難分解性 (1984)	解離性物質の ため測定不可	0.320 (48hr)	1993年実施 1区(0.05mg/L): 407 ~ 741 2区(0.005mg/L): 444 ~ 677 脂質含有率 3.9%	高濃縮性 ではない (1993)
ビス(水素化牛脂)ジメ チルアンモニウム = ク ロリド (61789-80-8)	$\text{H}_3\text{C}-\text{N}^+\begin{matrix} \text{CH}_3 \\ \\ (\text{CH}_2)_n-\text{CH}_3 \end{matrix}-(\text{CH}_2)_n-\text{CH}_3 \quad \text{Cl}^- \quad n=13 \sim 17$	2-0184 (K-663A)	標準(4W) 2002年実施 BOD -3, -3, -2 (0)* HPLC 17, 17, 17 (17)	難分解性 (2002)	対象外			
ジデシルジメチルア ンモニウムクロリド (7173-51-5)	$\text{H}_3\text{C}-\text{N}^+\begin{matrix} \text{CH}_3 \\ \\ (\text{CH}_2)_9-\text{CH}_3 \end{matrix}-(\text{CH}_2)_9-\text{CH}_3 \quad \text{Cl}^-$	2-0184 (K-663B)	標準(4W) 2007年実施 BOD -3, -2, -2 (0)* LC-MS 0, -1, -1 (0)*		対象外	0.707 (96hr)	2007年実施 1区(5 mg/L): 54 ~ 180 2区(0.5mg/L): 47 ~ 95 脂質含有率 開始前 3.75% 終了後 5.79%	

* 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0 と表記した。

整理番号 K-1613 (NEDO 164, 5-3433)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
3-アリルオキシ-1, 2-ベンゾイソチアゾール-1, 1-ジオキンド	契約 13年 11月 1日	契約 年 月 日	契約 年 月 日
[別名: 3-アリルオキシ-1, 2-ベンゾイソチアゾール=1, 1-ジオキンド] (27605-76-1)	試験期間 13.12.18~14. 3. 8	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
構造式 (示性式) ・物理化学的性状	試験装置 (標) ・揮	試験装置 標 ・揮	試験装置 標 ・揮
 <p>分子式 C₁₀H₉NO₃S 分子量 223.25</p>	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD 29, 24, 24 (26)%	試験結果 間接	試験結果 間接
	試験結果 直接 TOC 28, 28, 30 (29)% HPLC 100, 100, 100(100)%	試験結果 直接	試験結果 直接
純度*1 98.9%	外観 淡黄色結晶性粉末	審査部会 第14回 14年 5月29日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
不純物 (物質名, 含有率)	溶解度 (対水, その他) 対水 測定不可 対アセトニトリル 10 g/L 以上	審査部会 第 回 年 月 日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点*1 139.5℃	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = 2.86*3	判定 難分解性	判定
沸点 測定不可(295℃付近で茶色変化)	安定性 水中で変化する。	備考 1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。	3. 特記事項 ・被験物質は試験液中で変化し、(水+被験物質)系においては、アリル=2-(スルファモイル)ベンゾアート、1,2-ベンゾイソチアゾール-3(2H)-オン=1,1-ジオキンド(5-0198, log Kow = 0.45*3)及びアリル=アルコール(2-0260, K-115, S50. 11.25(18)良分解)を生成した。(汚泥+被験物質)系ではアリル基部分は分解し、1,2-ベンゾイソチアゾール-3(2H)-オン=1,1-ジオキンドが残留した。 ・後続試験は1,2-ベンゾイソチアゾール-3(2H)-オン=1,1-ジオキンドで実施した。
密度 1.16 g/cm ³ (25℃)		2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構	(汚泥+被験物質)系における被験物質の変化 
LD50*2 2,030mg/kg(ラット,経口) 2,750mg/kg(マウス,経口)			
IRチャートの有無 (有) ・ 無			
用途*4 殺虫剤、殺菌剤、防虫剤、防腐剤、防臭剤、防かび剤			
生産量*4 (11年) 製造及び輸入 100~1,000 t 未満			
試料 購入先 和光純薬工業 残留農薬試験用			
経済産業公報発表年月日 年 月 日			

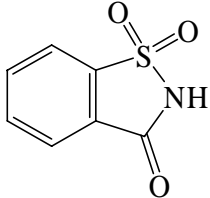
*1 和光純薬工業添付資料による。

*2 有機化合物辞典(講談社)による。

*3 Kowwin v 1.67 による計算値。

*4 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

濃縮度試験						濃縮度試験						毒性試験		
年 月 日						年 月 日								依 頼
試験期間						試験期間								
試験装置 標・揮		LC50 値 mg/L(hr)魚種()				試験装置 標・揮		LC50 値 mg/L(hr)魚種()						
水槽設定濃度 (mg/Lµg/L)						水槽設定濃度 ()								
	被験物質	分散剤					被験物質	分散剤						
第1濃度区						第1濃度区								経過
第2濃度区						第2濃度区								
第3濃度区						第3濃度区								
濃縮倍率		脂質含有率		開始前 終了後		濃縮倍率		脂質含有率		開始前 終了後				
		日後		日後				日後		日後		日後		
第1	水槽濃度 ()						第1	水槽濃度 ()						
	倍率						第1	倍率						
第2	水槽濃度 ()						第2	水槽濃度 ()						
	倍率						第2	倍率						
第3	水槽濃度 ()						第3	水槽濃度 ()						
	倍率						第3	倍率						
審査部会 第68回 19年 10月 26日 開催						審査部会 第 回 年 月 日 開催								
判定結果						判定結果								
備考						備考								
変化物1,2-ベンゾイソチアゾール-3(2H)-オン=1,1-ジオキ シドから類推。														

整理番号 K-1613変化物 (NEDO 164, 5-0198)		分解度試験		分解度試験		分解度試験		
1,2-ベンゾイソチアゾール-3(2H)-オン=1,1-ジオキソド		事業対象年度		契約 年 月 日		契約 年 月 日		
(81-07-2)		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .		
		試験装置 標・揮		試験装置 標・揮		試験装置 標・揮		
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₇ H ₅ NO ₃ S 分子量 183.18		試験濃度		試験濃度		試験濃度		
		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L		
		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L		
		本試験期間 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間		
		試験結果	間接		間接		間接	
			直接		直接		直接	
純度*1 99.5%	外観 白色結晶性粉末	審査部会 第 回 年 月 日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催		
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 0.5%は不明	溶解度*2 (対水, その他) 対水 4000 mg/L(25℃)	判定		判定		判定		
融点*2 228℃	1-オクタノール/水分配係数 log Pow < 0.3 (HPLC法)*3	備考		備考		備考		
沸点 測定不可(280℃付近から淡茶色に変化した)								
比重*2 0.828								
LD50	解離定数 pKa = 2.72							
IRチャートの有無 (有)・無								
用途								
生産量(年)								
試料 購入先 和光純薬工業								
経済産業公報発表年月日	年 月 日							

*1 和光純薬工業添付資料による。 *2 The Physical Properties Database(Jan.2000)(Syracuse Research Corporation)による。

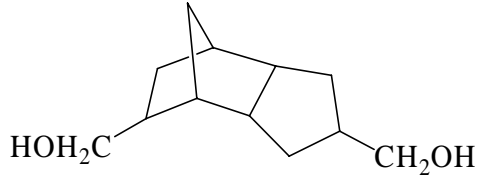
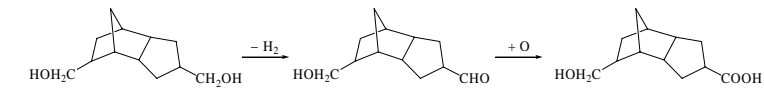
*3 International Uniform Chemical Information Database(European Chemicals Bureau)(Edition 2000)による。 *4 溶離液：メタノール/緩衝液(pH1.7)(1/1 V/V)

濃縮度試験 事業対象年度 平成18年度					濃縮度試験					依 頼	毒性試験	
試験期間 18.12.1 ~ 19.1.26					試験期間 . . . ~ . . .						年月日	
試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()			経過		
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()							
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤					
第1濃度区					第1濃度区							
第2濃度区					第2濃度区							
第3濃度区					第3濃度区							
濃縮倍率		脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()			濃縮倍率		脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()					
		日後	日後	日後	日後	日後	日後	日後	日後	日後		
第1	水槽濃度 ()											
	倍率											
第2	水槽濃度 ()											
	倍率											
第3	水槽濃度 ()											
	倍率											
審査部会 第68回 19年 10月 26日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催							
判定結果					判定結果							
備考					備考							
分配係数から類推												
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構												

K - 1 6 1 3 変化物の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K- 番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
2 -メルカプト=ベンゾチアゾール (149-30-4)		5-0242 (K-140)	標準(2W) 1975年実施 BOD 6, 0 (3) U V(330nm) 0, 0 (0) HPLC 0, 0 (0)	難分解性 (1976)	/	8.4 (48hr)	1976年実施 1区(100µg/L) : <0.8 2区(10µg/L) : <8 脂質含有率 -	高濃縮性 ではない (1976)
2 - (チオシアノメチルチオ)ベンゾチアゾール (21564-17-0)		5-3424 (K-868)	標準(4W) 1989年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 22, 20, 19 (20) 〔一部変化し、2 -メルカプトベンゾチアゾール、ビス(2 -ベンゾチアゾリルチオメチル)ジスルフィド、1 - (2 -ベンゾチアゾリル) - 4 - (2 -ベンゾチアゾリルチオメチルジチオ) - 1, 3 -ジチアブタンを生成し、残留した。〕	難分解性 (1989)	1989年実施 被験物質 3.30 (フラスコ振とう法) 不純物 >4.37 (フラスコ振とう法)	0.0989 (48hr)	1989年実施 1区(2 µg/L) : < 14 ~ 20 2区(0.2µg/L) : <153 ~ 268 脂質含有率 4.6%	高濃縮性 ではない (1990)
ベンゾチアゾール (95-16-9)		5-3426 (K-1042)	標準(4W) 1989年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 1, 0, 2 (1) HPLC 0, 1, 1 (1)	難分解性 (1989)	1990年実施 2.01 (フラスコ振とう法)	87.2 (48hr)	1990年実施 1区(200µg/L) : 2.1 ~ 5.1 2区(20µg/L) : <4.1 ~ 7.5 脂質含有率 4.0%	高濃縮性 ではない (1990)
3 - アリルオキシ - 1, 2 - ベンゾイソチアゾール = 1, 1 - ジオキシド (27605-76-1)		5-3433 (K-1613)	標準(4W) 2002年実施 BOD 29, 24, 24 (26) TOC 28, 28, 30 (29) HPLC 100, 100, 100 (100) 〔1, 2 - ベンゾイソチアゾール - 3 (2 H) オン = 1, 1 - ジオキシドを生成し、残留した。〕	難分解性 (2002)	/	/	1, 2 - ベンゾイソチアゾール - 3 (2 H) - オン = 1, 1 - ジオキシドから類推	
1, 2 - ベンゾイソチアゾール - 3 (2 H) - オン = 1, 1 - ジオキシド (81-07-2)		5-0198 (K-1613 変化物)	/	/	2006年実施 <0.3 (HPLC法)*	/	分配係数から類推	

* 溶離液 : メタノール / 緩衝液 (pH1.7) (1/1 V/V)

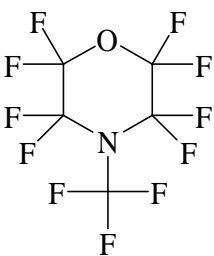
整理番号 K-1705 (NEDO 276, 4-0641)	分解度試験	分解度試験	分解度試験		
ジメチロールトリシクロデカン (26896-48-0)	事業対象年度 平成15年度	契約 年 月 日	契約 年 月 日		
[別名: 4, 8-ジヒドロキシメチルトリシクロ[5.2.1.0 ^{2,6}]デカン]	試験期間 15.10.2~15.12.18	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .		
	試験装置 (標)・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮		
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₁₂ H ₂₀ O ₂ 分子量 196.29	試験濃度	試験濃度	試験濃度		
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L		
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L		
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間		
	試験結果 間接 BOD 2, 1, 1 (1%) 直接 GC 19, 22, 15 (19%)	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接		
純度 95.4%(異性体を含む) 外観 無色粘稠液体	審査部会 第35回 16年 6月18日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催		
不純物(物質名, 含有率) 残り4.6%は不明	溶解度(対水, その他) 対水*1 11 g/L(20℃)	判定 難分解性	判定		
融点*1 約23℃	備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% 2. 実施機関 ・株式会社 三菱化学安全科学研究所 3. 特記事項 ・被験物質は7種の異性体混合物 ・(汚泥+被験物質)系において、被験物質は一部変化して、メチロールトリシクロデカンアルデヒド(2~7%生成, log Kow = 1.48*3)及びメチロールトリシクロデカン酸(12~15%生成, log Kow = 1.73*3)を生成し、残留した。	判定	判定		
沸点*1 約175℃(1.3 hPa)		また、LC-MS クロマトグラム上の保持時間から、メチロールトリシクロデカンアルデヒドとメチロールトリシクロデカン酸は被験物質より極性が高いと推定された。従って、後続試験は被験物質で実施した。 ・変化の経路 			
密度*1 1.102~1.109cm ³ (50℃)			被験物質 (保持時間: 49.0~67.9分) (残留)	メチロールトリシクロデカンアルデヒド (保持時間: 36.3~65.5分) (残留)	メチロールトリシクロデカン酸 (保持時間: 17.1~47.0分) (残留)
LD50					
IRチャートの有無 (有)・無					
用途					
生産量(年)					
試料 購入先 東京化成工業					
経済産業公報発表年月日 年 月 日					

*1 International Uniform Chemical Information Database(European Chemicals Bureau)(Edition 2000)による。

*2 溶離液:メタノール/精製水(6/4 V/V)

*3 Kowwin v 1.67による計算値。

濃縮度試験 事業対象年度 平成17年度					濃縮度試験					依 頼 過 程	毒 性 試 験			
試験期間 17.10.24 ~ 17.11.28					試験期間 . . . ~ . . .						年 月 日			
試験装置 標・揮 LC50値 mg/L(hr)魚種()					試験装置 標・揮 LC50値 mg/L(hr)魚種()									
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()									
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤							
第1濃度区					第1濃度区									
第2濃度区					第2濃度区									
第3濃度区					第3濃度区									
濃縮倍率 脂質含有率 開始前 終了後 % % 魚種()					濃縮倍率 脂質含有率 開始前 終了後 % % 魚種()									
		日後	日後	日後	日後	日後	日後	日後	日後	日後				
第1	水槽濃度()													
	倍 率													
第2	水槽濃度()													
	倍 率													
第3	水槽濃度()													
	倍 率													
審査部会 第68回 19年 10月 26日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催									
判定結果					判定結果									
備 考					備 考									
分配係数から類推														
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構														

整理番号 K-1738 (NEDO 312, 5-3790)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
ペルフルオロ-N-メチルモルホリン (382-28-5)	事業対象年度 平成17年度	契約 年 月 日	契約 年 月 日
	試験期間 17.11.28~18.1.31	試験期間 . . ~ . .	試験期間 . . ~ . .
	試験装置 Closed bottle	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₅ F ₁₁ NO 分子量 299.04	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 10.2 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	都市下水処理場二次放流水 1滴/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD -4, -6 (0)% 直接 GC 2, -1 (0)%	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接
純度 ①99.5%* ¹ ②98%* ² ③99.5%* ³	外観 無色透明液体		
不純物(物質名, 含有率)	溶解度(対水, その他) 対水 5.10 mg/L(20°C) (フラスコ法) 対クロロホルム 10 g/L以上 対テトラヒドロフラン 2 g/L以上	審査部会 第56回 18年 7月 21日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点* ⁴ -80°C		判定 難分解性	判定
沸点* ⁴ 51°C	1-オクタノール/水分配係数 log Pow > 3.93 (フラスコ振とう法による予備値)	備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 92.5% (汚泥+被験物質)系 92.4% 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構 3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。	備考
密度 1.695 g/cm ³ (25°C)	解離定数 解離基なし		
LD ₅₀			
IRチャートの有無 (有)・無			
用途			
生産量(年)			
試料購入先 ①AVOCADO RESEARCH CHEMICALS LTD. ②Fluorochem Limited ③企業提供			
経済産業省公報発表年月日 年 月 日			

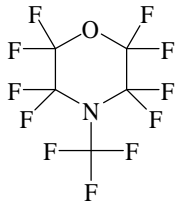
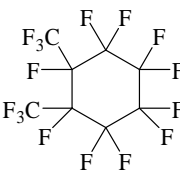
*1 AVOCADO RESEARCH CHEMICALS LTD. 添付資料による。 *2 Fluorochem Limited 添付資料による。 *3 試料提供企業添付資料による。

*4 The Physical Properties Database (Syracuse Research Corporation)による。

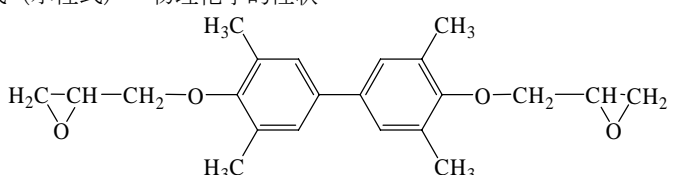
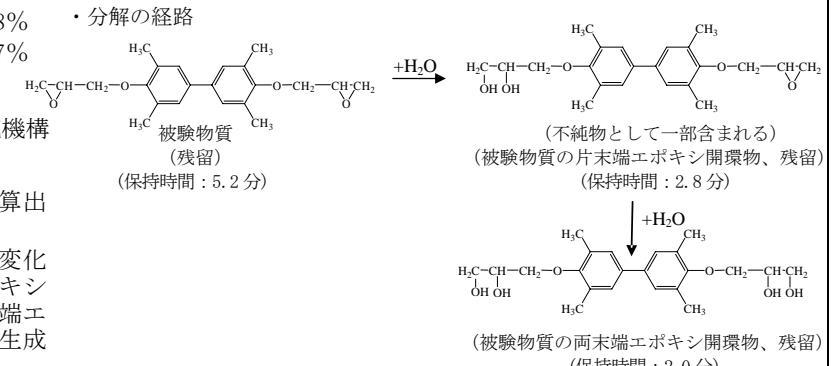
①分配係数試験及び物理化学性状試験 ②分解度試験 ③濃縮度試験

濃縮度試験		事業対象年度		平成17年度		濃縮度試験				毒性試験			
試験期間		18.2.6		~ 18.6.27		試験期間		. . . ~ . . .		年月日			
試験装置 標・揮		LC50値 >0.500 mg/L(96hr)魚種(ヒメダカ)				試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()		依			
水槽設定濃度 (μg/L)						水槽設定濃度 ()				類			
		被験物質		分散剤		被験物質		分散剤		経過			
				メガファック F-443	テトラヒドロフラン								
第1濃度区		25.4		25.4		8900							
第2濃度区		2.54		2.54		8900							
第3濃度区													
濃縮倍率		脂質含有率		開始前 2.43%		終了後 4.55%		魚種(コイ)				濃縮倍率	
				脂質含有率		開始前 %		終了後 %		魚種()			
		14日後		28日後		42日後		52日後		60日後			
第1		水槽濃度 (μg/L)		25.1		23.5		24.8		25.3		24.7	
		倍率		76		170		240		250		250	
第2		水槽濃度 (μg/L)		2.44		2.39		2.47		2.49		2.50	
		倍率		74		160		170		220		210	
第3		水槽濃度 ()											
		倍率		64		140		170		220		250	
審査部会		第68回		19年		10月		26日		開催			
審査部会		第 回		年		月		日		開催			
判定結果										判定結果			
備考		[定常状態における濃縮倍率]		第1濃度区 240倍		第2濃度区 200倍				備考			
		[回収率]		[定量下限濃度]		試験水 第1濃度区 1.2 μg/L		第2濃度区 0.12μg/L					
		供試魚 第1濃度区 81.6%		供試魚 第1濃度区 710 ng/g		第2濃度区 97.6%		第2濃度区 63 ng/g					
		[実施機関]		財団法人 化学物質評価研究機構									

K - 1738 の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K- 番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ペルフルオロ - N - メチルモルホリン (382-28-5)		5-3790 (K-1738)	Closed bottle法(4W) (10.2mg/L) 2006年実施 BOD -4, -6 (0)* G C 2, -1 (0)	難分解性 (2006)	2005 年実施 >3.93 (フラスコ振とう 法による予備値)	>0.500 (96hr)	2006 年実施 定常状態における濃縮倍率 1 区(25.4µg/L) : 240 2 区(2.54µg/L) : 200 脂質含有率 開始前 2.43% 終了後 4.55%	
ペルフルオロ - 1 , 2 - ジメチルシクロ ヘキサン (306-98-9)		3-3247 (K-1739)	標準(4W) 2006年実施 BOD 1, -9, -5 (0)* G C -6, -3, -4 (0)*	難分解性 (2006)	2005 年実施 >3.80 (フラスコ振とう 法による予備値)	>1.50 (96hr)	2006 年実施 定常状態における濃縮倍率 ピーク 1 1 区(2.33 µg/L) : 1400 2 区(0.233µg/L) : 1600 ピーク 2 1 区(2.33 µg/L) : 6900 2 区(0.233µg/L) : 7700 ピーク 3 1 区(2.33 µg/L) : 6000 2 区(0.233µg/L) : 5800 ピーク 4 1 区(2.33 µg/L) : 5400 2 区(0.233µg/L) : 5700 ピーク 5 1 区(2.33 µg/L) : 16000 2 区(0.233µg/L) : 15000 脂質含有率 開始前 3.20% 終了後 4.59%	高濃縮性 (2006)

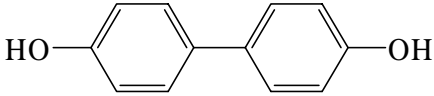
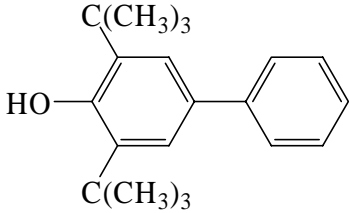
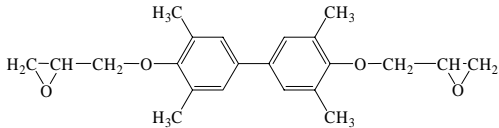
* 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0 と表記した。

整理番号 K-1790 (4-1522)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
4, 4'-ビス(2, 3-エポキシプロポキシ)-3, 3', 5, 5'-テトラ		事業対象年度 平成17年度		契約 年 月 日		契約 年 月 日	
メチルビフェニル (85954-11-6)		試験期間 18. 7. 18~19. 3. 13		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
		試験装置 (標) ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮	
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₂₂ H ₂₆ O ₄ 分子量 354.44		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
純度 90.9% (HPLC)		外観 フレーク状固体		試験結果 間接		試験結果 間接	
不純物 (物質名, 含有率) エポキシ開環物 1.74% 二量体 5.42% 残り 1.9%は不明 (有機物質) (LC-MS)		溶解度 (対水, その他) 対水 335 µg/L (20℃) (カラム溶出法) 対テトラヒドロフラン >10 g/L		試験結果 直接		試験結果 直接	
融点 99.8~106.6℃ (金属ブロック付毛細管法)		1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 4.0 (HPLC法)*1		審査部会 第68回		審査部会 第 回	
沸点 測定不可 (200℃以上で分解していると考えられる)		加水分解性 (25℃における半減期) pH4 5.41日, pH7 6.73日 pH9 9.01日		19年10月26日開催		年 月 日開催	
蒸気圧 測定不可 (変化物を生成した) (気体流動法) 6.71 × 10 ² Pa (25℃) (静的方法)		解離定数		判定		判定	
密度		備考 1. 回収率 (水 + 被験物質)系 95.8% (汚泥 + 被験物質)系 95.7%		判定		判定	
LD50		2. 実施機関 ・ 財団法人 化学物質評価研究機構				・ HPLC クロマトグラム上の保持時間から、生成した変化物は被験物質より極性が高いと推定された。 ・ 分解の経路	
IRチャートの有無 (有) ・ 無		3. 特記事項 ・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。 ・ 被験物質は試験液中で一部変化し、被験物質の両末端エポキシ開環物及び被験物質の片末端エポキシ開環物が各々1~2%生成し、残留した。		被験物質 (残留) (保持時間: 5.2分) (不純物として一部含まれる) (被験物質の片末端エポキシ開環物、残留) (保持時間: 2.8分) (被験物質の両末端エポキシ開環物、残留) (保持時間: 2.0分)			
用途							
生産量 (年)							
試料							
経済産業公報発表年月日 年 月 日							

*1 溶離液: アセトニトリル/精製水 (60/40 V/V)

濃縮度試験					事業対象年度					平成18年度					濃縮度試験					濃縮度試験					毒性試験													
試験期間					19. 1. 26 ~ 19. 3. 20					試験期間					. . . ~ . . .					依		年月日																
試験装置 (標)・揮					LC50値 1.57 mg/L(96hr)魚種(ヒメダカ)					試験装置 標・揮					LC50値 mg/L(hr)魚種()					類																		
水槽設定濃度 (μg/L)										水槽設定濃度 ()																												
被験物質					分散剤					被験物質					分散剤					経過																		
					HCO-40										N,N-ジメチルホルムアミド																							
第1濃度区					4.55					200					約20000									第1濃度区														
第2濃度区					0.455					20.0					約20000									第2濃度区														
第3濃度区																								第3濃度区														
濃縮倍率					脂質含有率					開始前 3.45%					濃縮倍率									脂質含有率					開始前 %									
					終了後 2.02%					魚種(コイ)										終了後 %					魚種()													
					7日後					12日後					19日後					23日後					28日後													
第1					水槽濃度 (μg/L)					4.62					4.53					4.52					4.52					4.79								
					倍率					≤2.6					≤2.6					≤2.6					≤2.6					≤2.6								
										≤2.6					≤2.6					≤2.6					≤2.6					≤2.6								
第2					水槽濃度 (μg/L)					0.432					0.461					0.435					0.441					0.469								
					倍率					≤27					≤27					≤27					≤27					≤27								
										≤27					≤27					≤27					≤27					≤27								
第3					水槽濃度 ()																																	
					倍率																																	
審査部会					第68回					19年					10月					26日					開催													
判定結果																																						
備考					[ばく露期間における濃縮倍率] 第1濃度区 2.6倍以下					第2濃度区 27倍以下																												
					[回収率]					[定量下限濃度]																												
					試験水					96.1%					試験水					第1濃度区					0.19 μg/L													
																									第2濃度区					0.019μg/L								
					供試魚					75.1%					供試魚					12					ng/g													
[実施機関]					財団法人					化学物質評価研究機構																												

K - 1790 の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K- 番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
4,4'-ジヒドロキシ ビフェニル (92-88-6)		4-0820 (K-1509)	標準(4W) 2000年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 0, 0, 0 (0)	難分解性 (2000)	/	15.8 (96hr)	2001年実施 1区(20µg/L): 11~34 2区(2µg/L): 17~33 脂質含有率 開始前 1.61% 終了後 2.28%	高濃縮性 ではない (2001)
2,6-ジ- <i>tert</i> - ブチル-4-フ ェニルフェノール (2668-47-5)		4-0821 (K-481)	標準(4W) 1980年実施 BOD 0, 1, 0 (0) U V(266nm) 0, 0, 5 (2)	難分解性 (1980)	1981年実施 >6.19 (HPLC法)	460 (48hr)	1回目 1981年実施 1区(0.5 mg/L): 917~4860 2区(0.05mg/L): 2320~12500 脂質含有率 - 2回目 1983年実施 1区(10µg/L): 3380~15900 2区(1µg/L): 3260~8690 脂質含有率 -	中濃縮性 高濃縮性 (2002)
4,4'-ビス(2, 3-エポキシプロ キシ)-3,3',5, 5'-テトラメチル ビフェニル (85954-11-6)		4-1522 (K-1790)	標準(4W) 2007年実施 BOD -3, -3, -5 (0) HPLC 1, 2, 1 (2)		2007年実施 4.0 (HPLC法)	1.57 (96hr)	2007年実施 1区(4.55 µg/L): 2.6 2区(0.455µg/L): 27 脂質含有率 開始前 3.45% 終了後 2.02%	